

鎌倉市次世代育成支援に関するニーズ調査

報告書概要版

この冊子は、平成 21 年 2 月から 3 月にかけて実施した「鎌倉市次世代育成支援に関するニーズ調査」のあらましです。ご協力いただいた市民の皆様には、心からお礼を申し上げます。

また、この調査結果は、今後の次世代育成支援を推進していく上で、貴重な基礎資料として活用させていただきます。

鎌倉市 こども部こどもみらい課
〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号
電話 0467-23-3000（代表）

調査概要（調査の設計）

調査目的

鎌倉市では、次世代育成支援対策推進法に基づき、「鎌倉市次世代育いきらきらプラン」を策定し、子育て支援施策を推進している。

同プランは平成 17～21 年度を前期計画、平成 22～26 年度を後期計画と位置付けており、本調査は、後期計画策定にあたって、子育て家庭等の意識や生活実態、サービスの利用状況・利用希望等を把握し、本市が取り組むべき課題の検討に資することを目的とする。

調査対象者

- ① 就学前児童対象：0 歳～5 歳児童の保護者 1,750 人
- ② 就学児童対象：6 歳～12 歳児童の保護者 1,750 人
- 合 計 3,500 人

標本の抽出方法

住民基本台帳（平成 21 年 2 月 1 日現在）に基づく層化二段無作為抽出

調査方法

郵送配布－郵送回収（督促礼状 1 回）

調査期間

平成 21 年 2 月 25 日（水）～3 月 17 日（火）

回収結果

調査名称	配布数	有効回収数	有効回収率
① 就学前児童調査	1,750	1,212	69.3%
② 就学児童調査	1,750	1,167	66.7%
合 計	3,500	2,379	68.0%

図表の見方

- (1) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出している。なお、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%を上下する場合がある。
- (2) 複数回答の設問の場合は、回答が 2 つ以上あるため、全ての比率を合計すると 100%を超えることがある。

目 次

第1部 就学前児童

■回答者の属性	3
■父親・母親の就労状況、育児休業制度等の利用	4
■子育てについての考え	5
1. 子どもを育てている生活の満足度	5
2. 「子どもを産み育てること」に社会は評価しているか	5
3. 子育てにかかる1か月の費用	5
4. 理想的な子どもの人数と持つつもりの子どもの人数	6
5. 理想より持つつもりの子どもの人数が少ない理由	7
■日常の育児に関して	8
6. 子育てでわからなくなることがあるか	8
7. 子育てを楽しく行うために必要なサービス	8
■子どもの教育や保育について	9
8. 預かり保育制度の認知度と要望	9
9. 保育サービスや幼稚園の利用状況	10
10. 現在利用している保育サービスや幼稚園	10
11. 保育所や幼稚園を休んだことの有無と対処方法	11
12. 保育サービスや幼稚園を利用していない理由	11
13. ベビーシッターの利用状況	12
14. ファミリーサポートセンターの利用状況	13
15. つどいの広場や子育て支援センターの利用の有無	14
16. 子どもを一時的に預けたことの有無と対処方法	15
17. 子どもを泊まりがけで預けたことの有無と対処方法	16
18. 今後利用したいサービスについて	17
19. 子育てサークルなどへの参加状況	18
■幅広い子育ての環境や社会全体としての次世代育成支援（子育て支援）のあり方について	19
20. 子育てをしていて特に困ること、困ったこと	19
21. 父親が子育てに関わりづらい理由	19

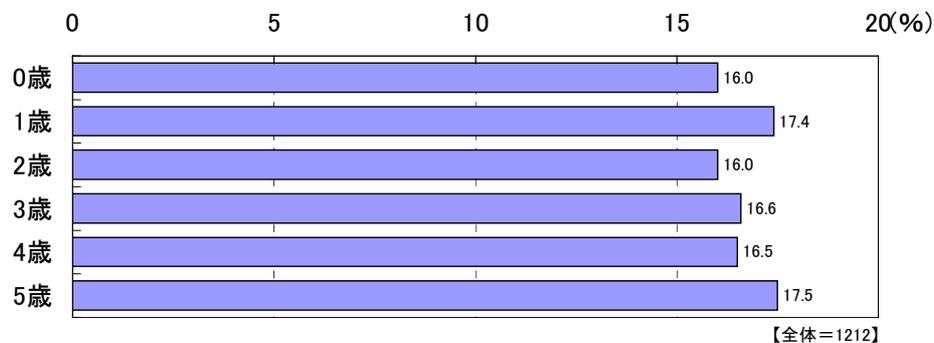
第2部 就学児童

■回答者の属性	20
■父親・母親の就労状況	21
■子育てについての考え	22
1. 子どもを育てている生活の満足度	22
2. 「子どもを産み育てること」に社会は評価しているか	22
3. 子育てにかかる1か月の費用	22
4. 理想的な子どもの人数と持つつもりの子どもの人数	23
5. 理想より持つつもりの子どもの人数が少ない理由と最大の理由	24
■子どもの日常生活や育児について	25
6. 1日あたりのテレビ・ビデオの視聴時間	25
7. 1日あたりのゲームで遊ぶ時間	25
8. 子どもの朝食の頻度	25
9. 子どもだけで食事をとることの有無、頻度	26
10. 子育てを楽しく行うために必要なサービス	26
■家庭の事情等で子どもを預けるサービスについて	27
11. 子どもを一時的に預けたことの有無と対処方法、サービスの利用意向	27
12. 子どもを泊まりがけで預けたことの有無と対処方法、サービスの利用意向	28
■子どもの家（学童保育）や育児に関するサービスの利用等について	29
13. 子どもの家の利用状況	29
14. 放課後子ども教室の利用意向	29
15. 学校を休んだことの有無と対処方法	30
16. ベビーシッターの利用状況	31
17. ファミリーサポートセンターの利用状況	32
18. 子育てサークルなどへの参加状況	33
■幅広い子育ての環境や社会全体としての次世代育成支援（子育て支援）のあり方について	34
19. 子どもの安全を守るために特に重要と思うこと	34
20. 父親が子育てにかかわりづらい理由	34

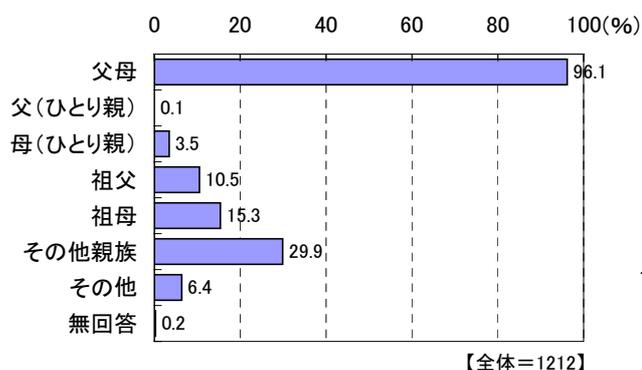
第1部 就学前児童

■回答者の属性

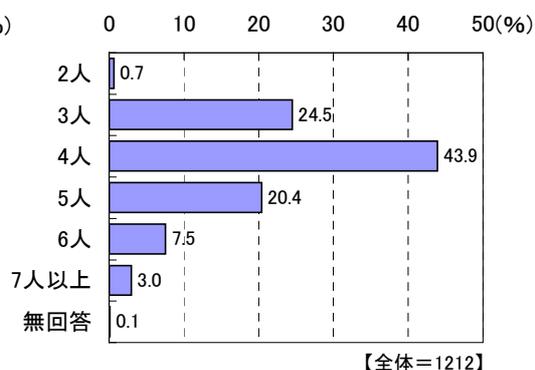
(1) 子どもの年齢



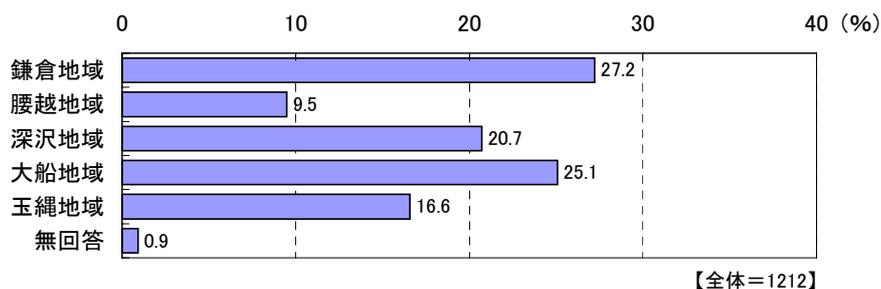
(2) 同居家族



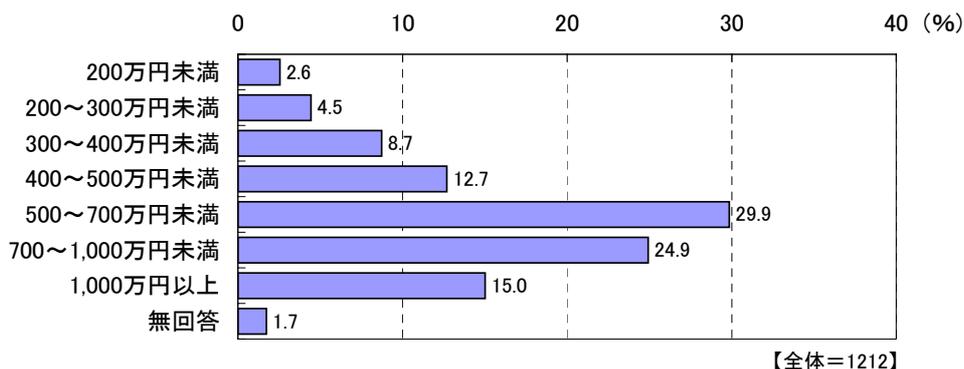
(3) 同居家族全員の人数



(4) 居住地域

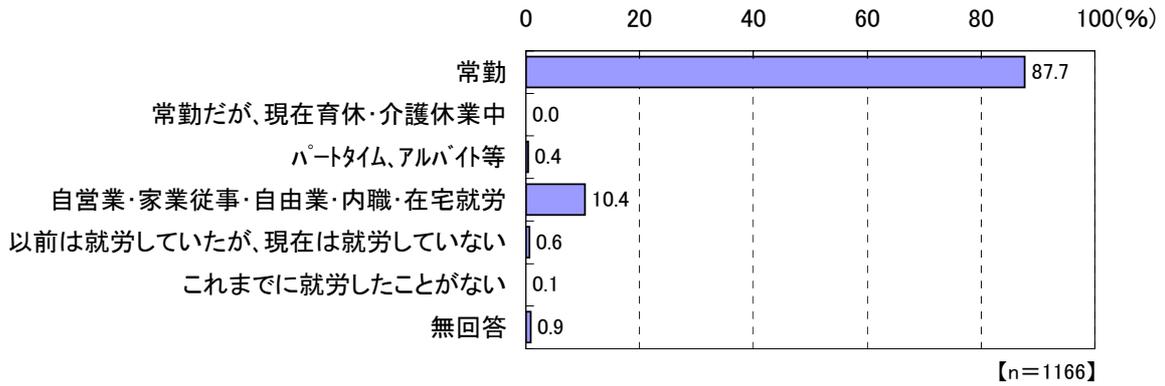


(5) 保護者の年収の合計

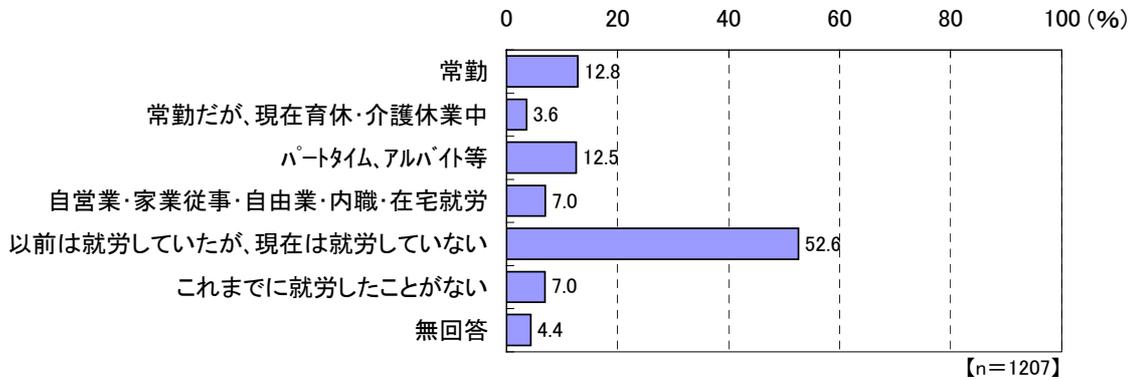


■父親・母親の就労状況、育児休業制度等の利用

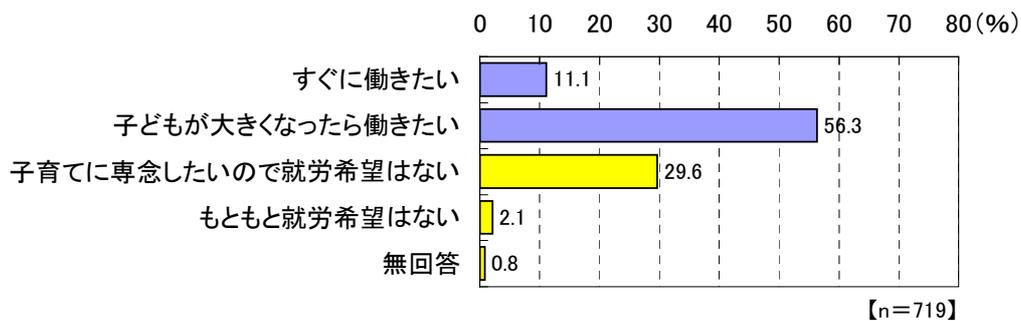
(1) 父親の就労状況



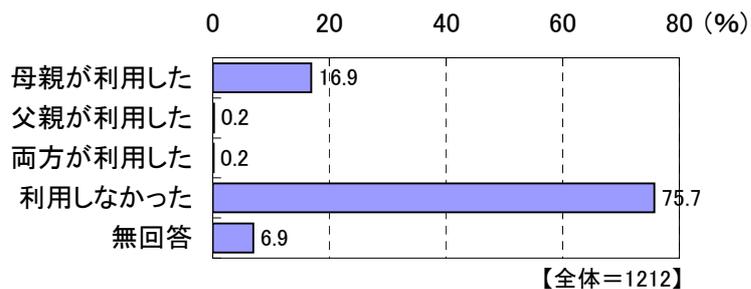
(2) 母親の就労状況



(3) 母親の就労希望

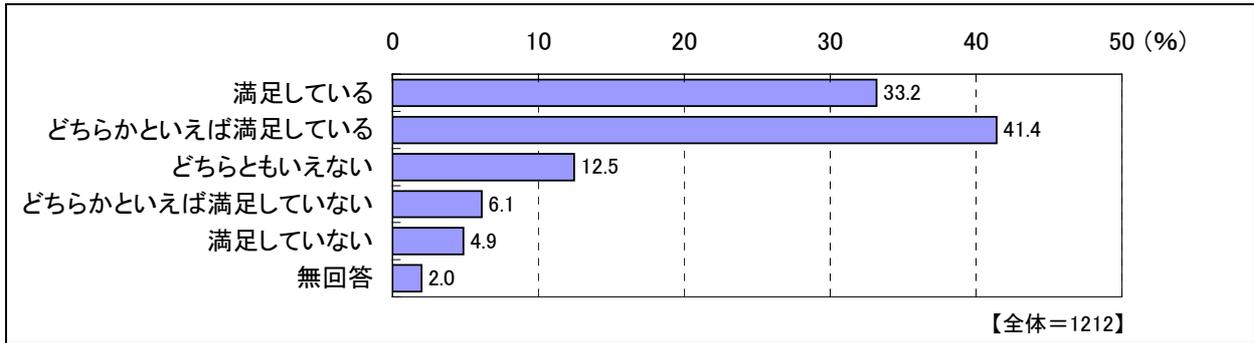


(4) 父親・母親の育児休業制度の利用



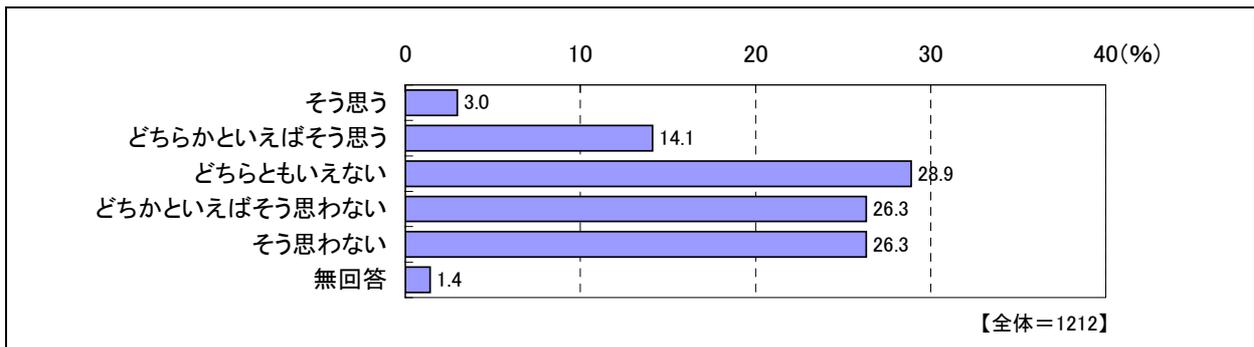
■子育てについての考え

1. 子どもを育てている生活の満足度



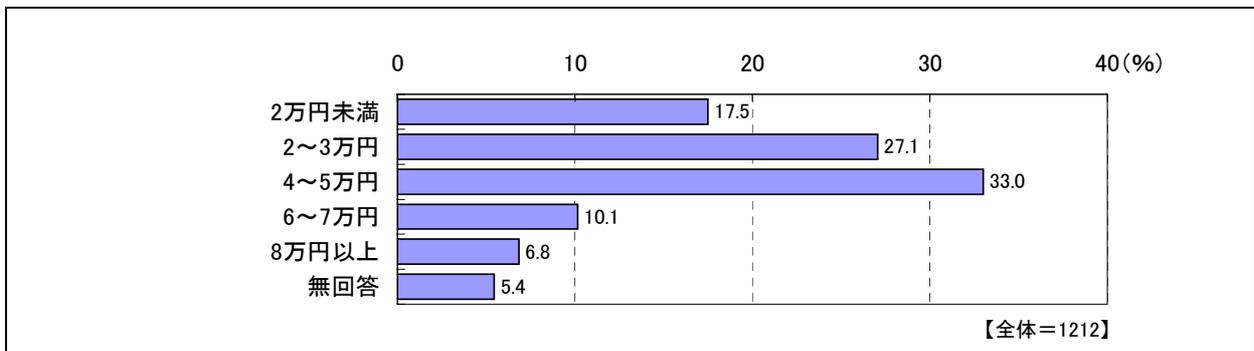
子どもを育てている現在の生活に対して、「どちらかといえば満足している」(41.4%)が最も多く、これに次ぐ「満足している」(33.2%)を合わせた<満足度>は 74.6%と全体のほぼ 3/4 を占めている。一方、「どちらかといえば満足していない」(6.1%)と「満足していない」(4.9%)を合わせた<不満足度>は 11.0%となっている。

2. 「子どもを産み育てること」に社会は評価しているか



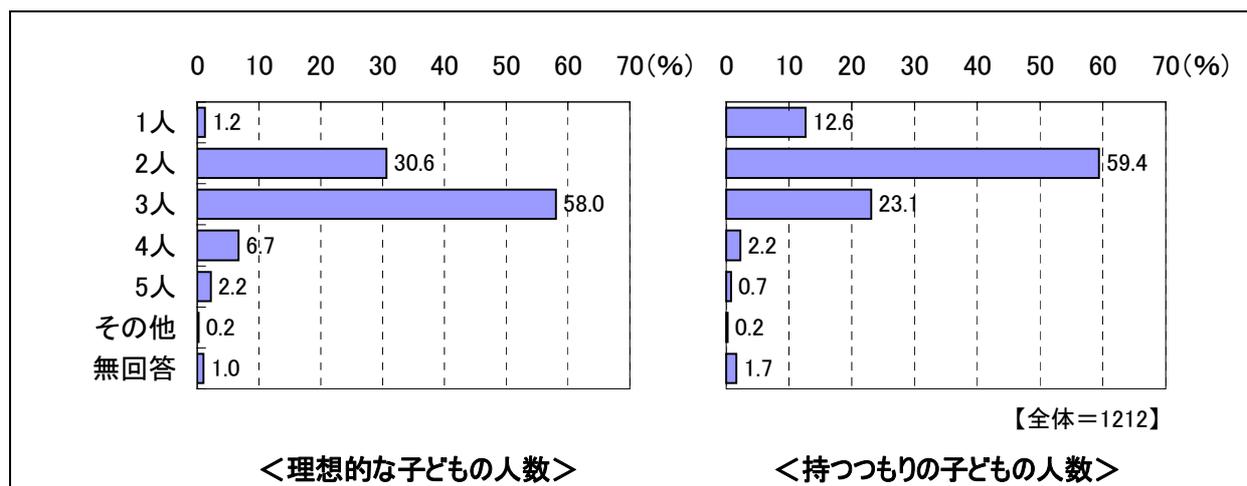
「子どもを産み育てること」を今の社会が十分に評価しているかについて、「どちらともいえない」(28.9%)が最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」(ともに 26.3%)の、<評価しているとは思わない>が 52.6%と半数を超える結果となった。「そう思う」(3.0%)は低い割合であった。

3. 子育てにかかる1か月の費用



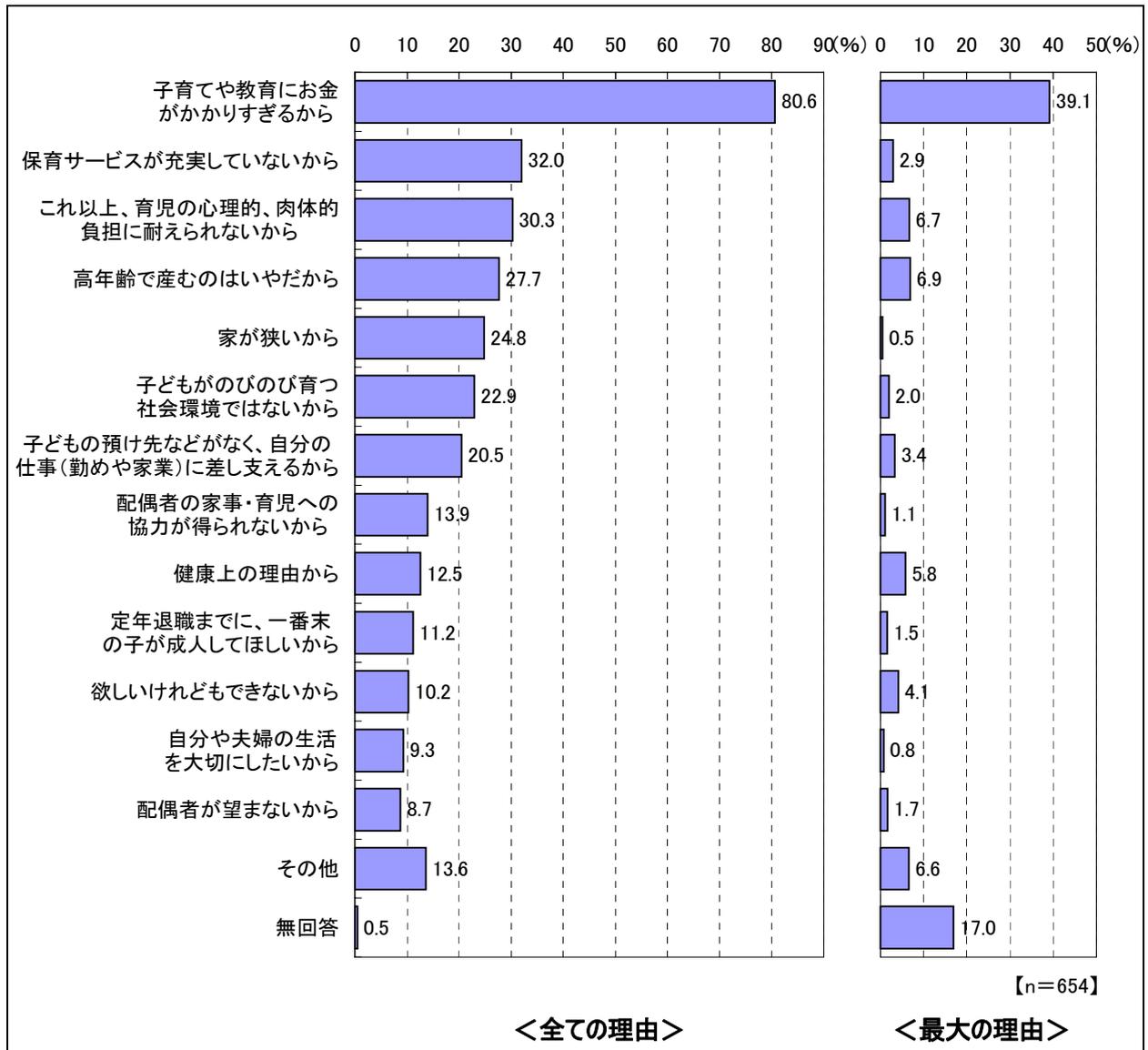
子育てにかかる1か月の費用は、「4~5万円」(33.0%)が最も多く、次いで「2~3万円」(27.1%)、「2万円未満」(17.5%)の順となった。

4. 理想的な子どもの人数と持つつもりの子どもの人数



理想的な子どもの人数は、「3人」(58.0%)が最も多く、次いで「2人」(30.6%)、「4人」(6.7%)の順となっている。一方、持つつもりの子どもの人数は、「2人」(59.4%)、「3人」(23.1%)、「1人」(12.6%)の順となっている。

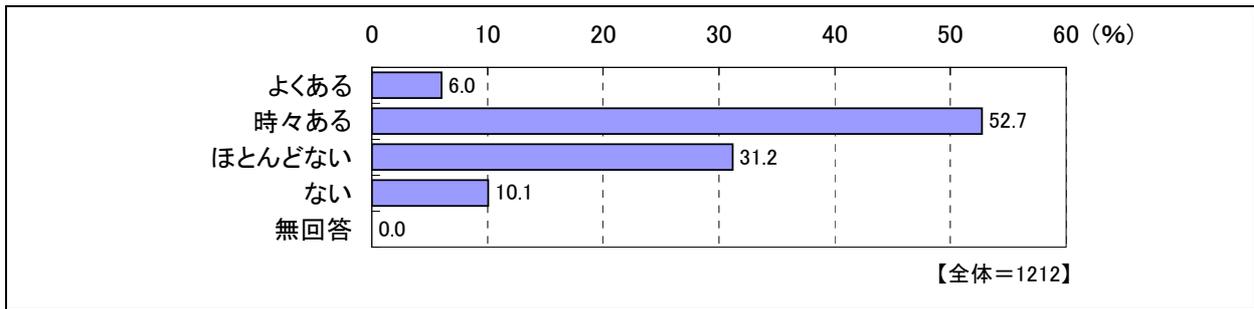
5. 理想より持つつもりの子どもの人数が少ない理由



「持つつもりの子どもの人数」が「理想的な子どもの人数」より少ない回答者(該当 654 人)の、その理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」をあげた回答者の割合が 80.6%で最も多く、さらに「最大の理由」としてあげた回答者の割合も 39.1%と最も多い結果となった。その他の理由としては、「保育サービスが充実していないから」(32.0%)、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」(30.3%)、「高年齢で産むのがいやだから」(27.7%)と続いている。

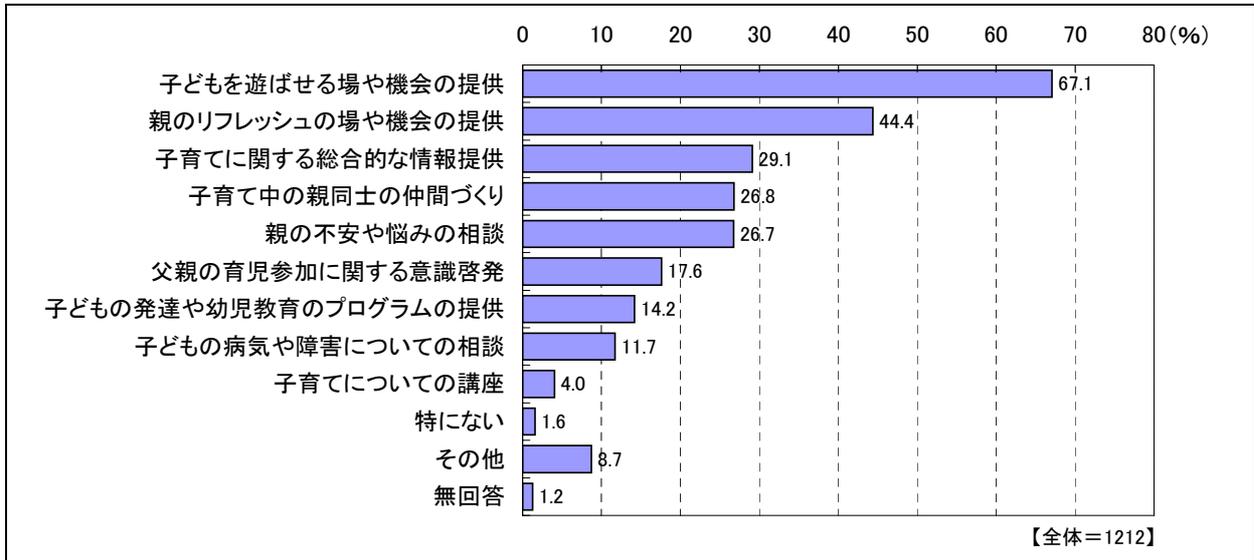
■日常の育児に関して

6. 子育てでわからなくなることがあるか



子育てでどうしていいかわからなくなることが、「時々ある」(52.7%)が最も多い結果となり、以下、「ほとんどない」(31.2%)、「ない」(10.1%)、「よくある」(6.0%)の順となった。

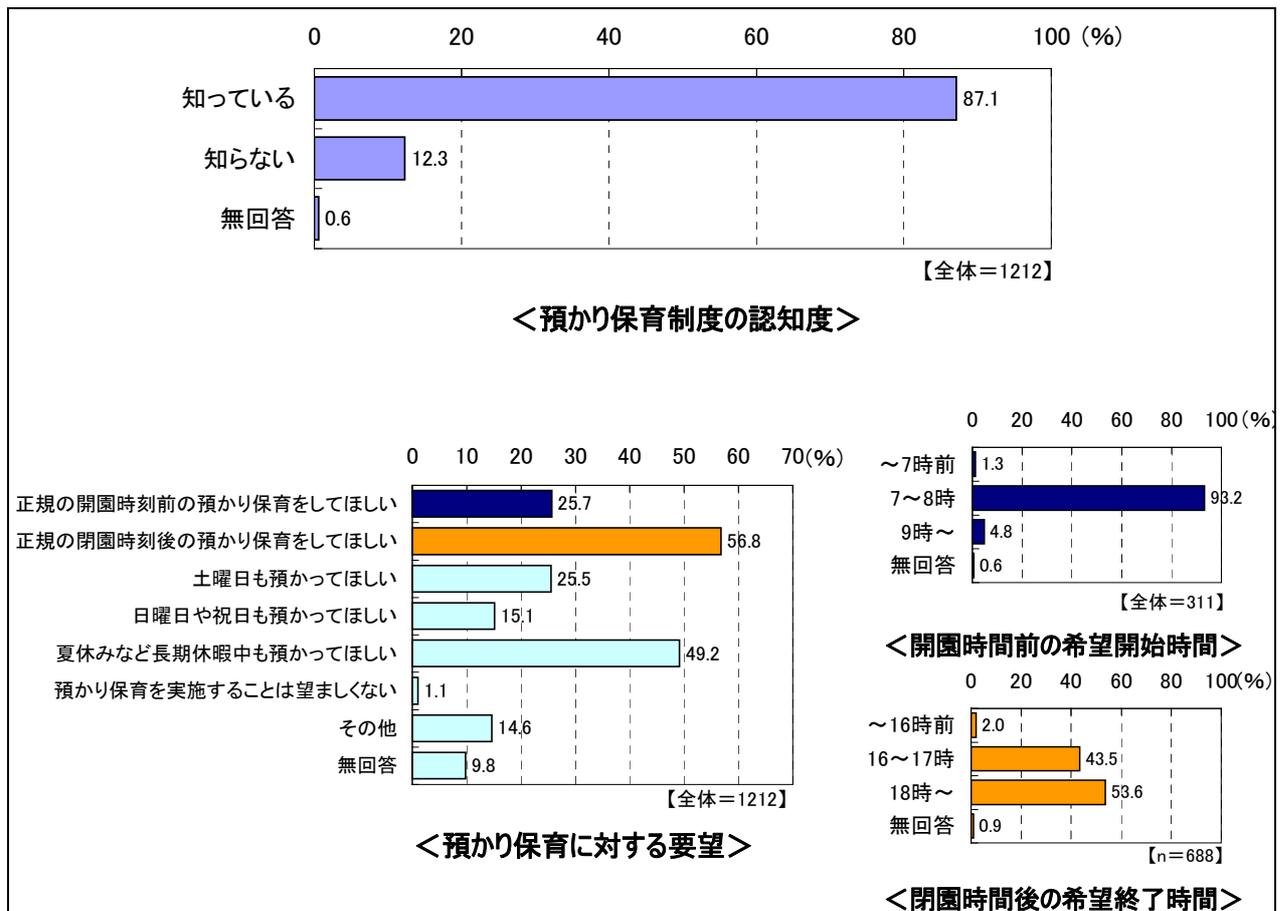
7. 子育てを楽しく行うために必要なサービス



回答者が日常の子育てを楽しく安心して行うために必要と思うサービスは、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」(67.1%)が最も多く全体のほぼ 2/3 を占める結果となり、以下、「親のリフレッシュの場や機会の提供」(44.4%)、「子育てに関する総合的な情報提供」(29.1%)、「子育て中の親同士の仲間づくり」(26.8%)、「親の不安や悩みの相談」(26.7%)と続いている。

■子どもの教育や保育について

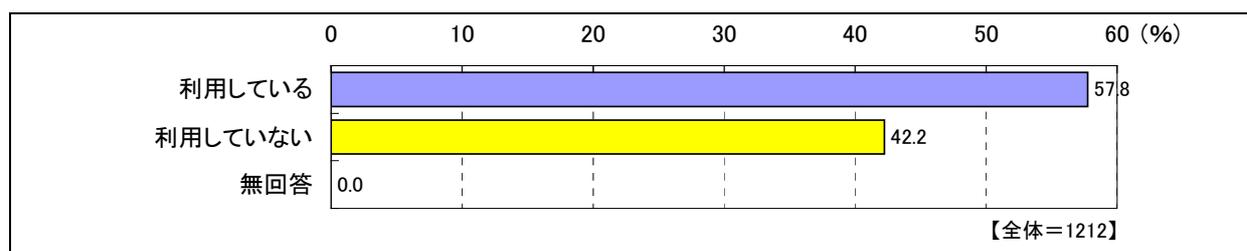
8. 預かり保育制度の認知度と要望



幼稚園における預かり保育を「知っている」回答者は 87.1%と多くの割合を占めた。

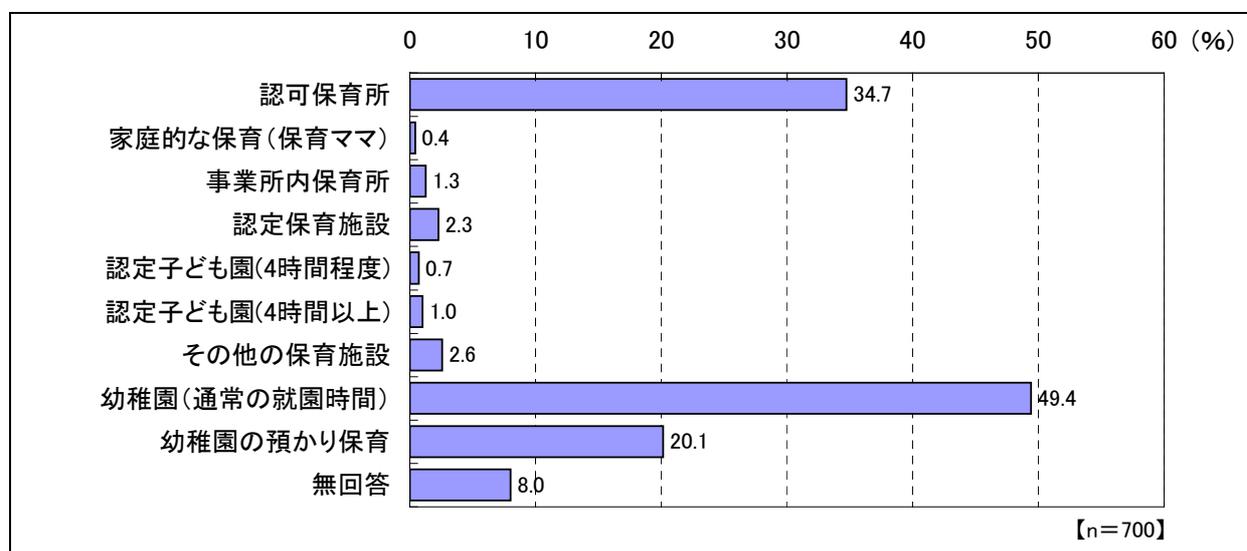
また、預かり保育に対する要望としては、「正規の開園時刻後の預かり保育」(56.8%)が最も多く、時間帯も「18 時以降」(53.6%)までを希望する割合が最も多い結果となった。「正規の開園時刻前の預かり保育」(25.7%)もほぼ回答者の 1/4 を占めており、時間帯は「7～8 時」(93.2%)からを希望する割合が最も多かった。これら以外では、「夏休みなど長期休暇中も預かってほしい」(49.2%)、「土曜日も預かってほしい」(25.5%)、「日曜日や祝日も預かってほしい」(15.1%)と続いている。

9. 保育サービスや幼稚園の利用状況



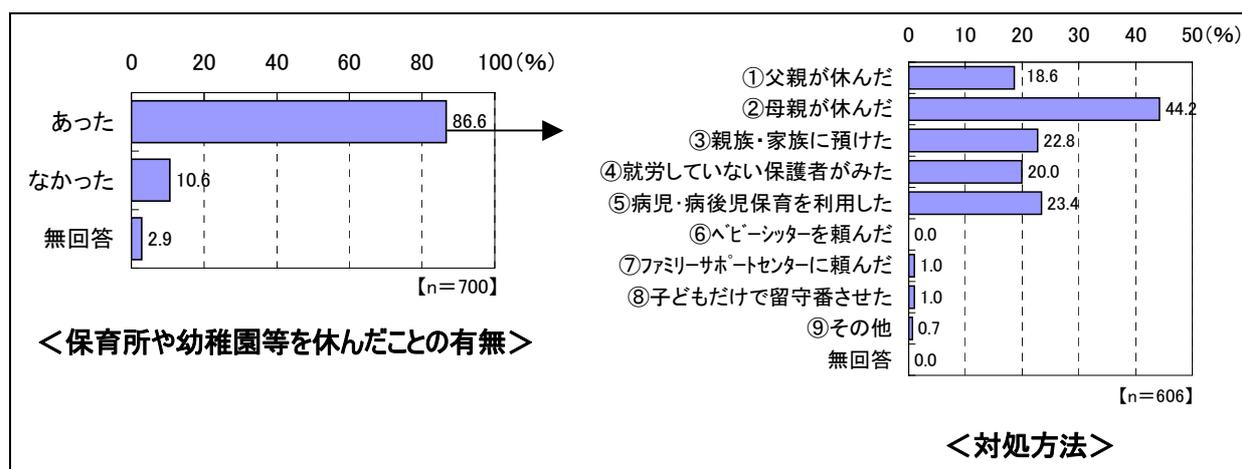
定期的な保育サービスや幼稚園を「利用している」回答者は 57.8%と半数を超える結果となった。「利用していない」は 42.2%であった。

10. 現在利用している保育サービスや幼稚園



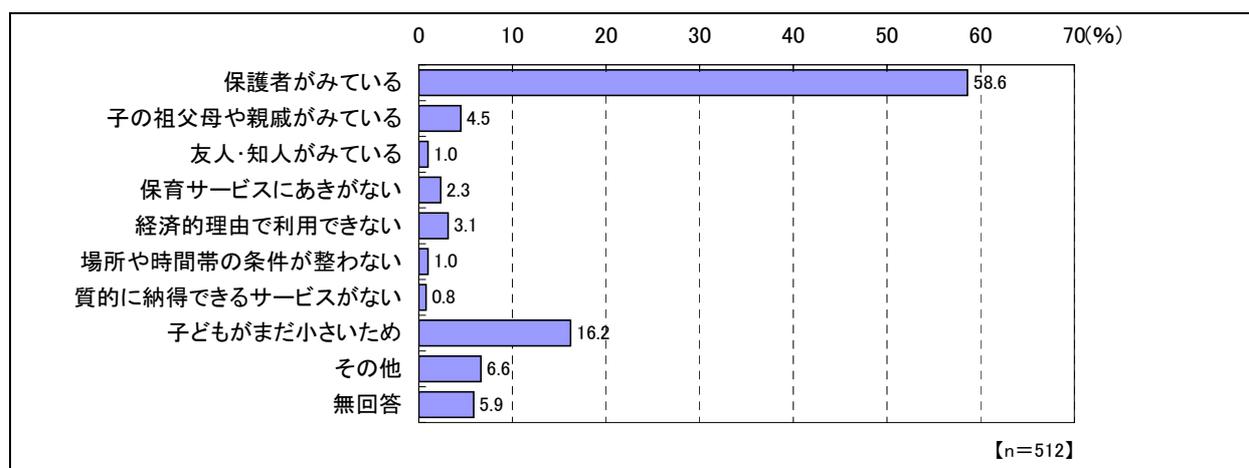
利用している定期的な保育サービスや幼稚園で、最も多かったのは「幼稚園(通常の就園時間)」(49.4%)で、回答者のほぼ半数が利用している結果となった。以下、「認可保育所」(34.7%)、「幼稚園の預かり保育」(20.1%)と続き、さらに「その他の保育施設」(2.6%)、「認定保育施設」(2.3%)、「事業所内保育施設」(1.3%)、「認定子ども園(4時間以上)」(1.0%)など低い割合ではあるものの、選択肢の全ての保育サービスに対し、市民の利用実態があることが把握された。

1.1. 保育所や幼稚園等を休んだことの有無と対処方法



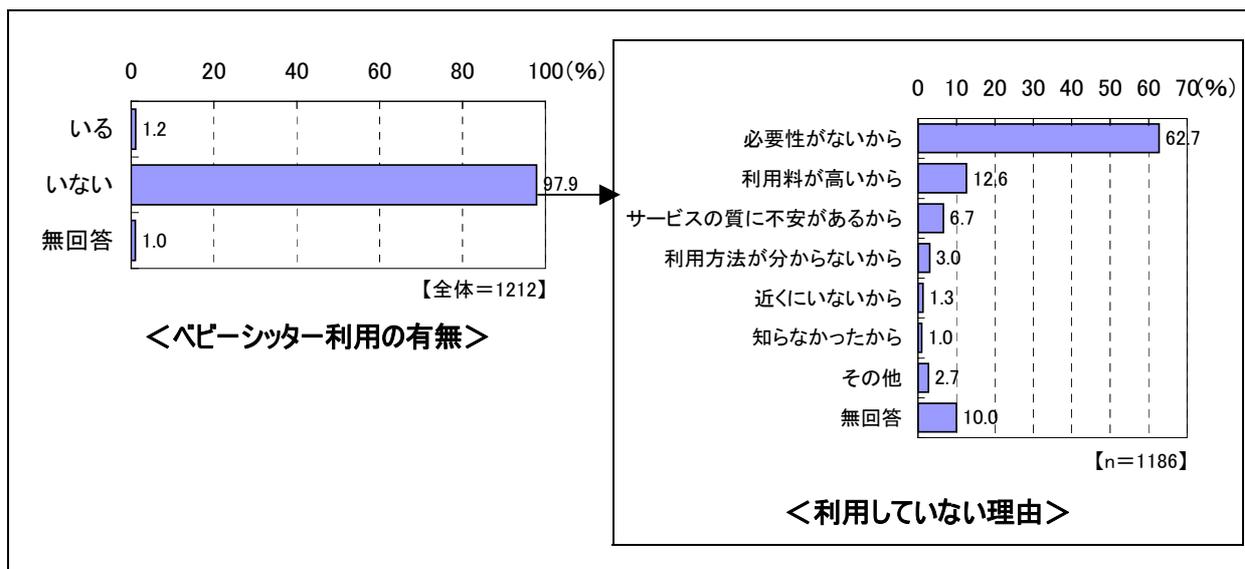
保育サービスや幼稚園を利用している回答者で、この1年間に子どもが病気やけがで休んだことが「あった」は86.6%と多く割合を占めた。対処方法として最も多かったのは「母親が休んだ」(44.2%)で、「病児・病後児保育を利用した」(23.4%)、「同居者を含む親族・家族に預けた」(22.8%)と続いている。

1.2. 保育サービスや幼稚園を利用していない理由



保育サービスや幼稚園を利用していない理由としては、「保護者がみている」(58.6%)ことを理由とする割合が最も多く半数以上を占めた。以下、「子どもがまだ小さいため」(16.2%)、「子の祖父母や親戚がみている」(4.5%)、「経済的理由で利用できない」(3.1%)と続いている。

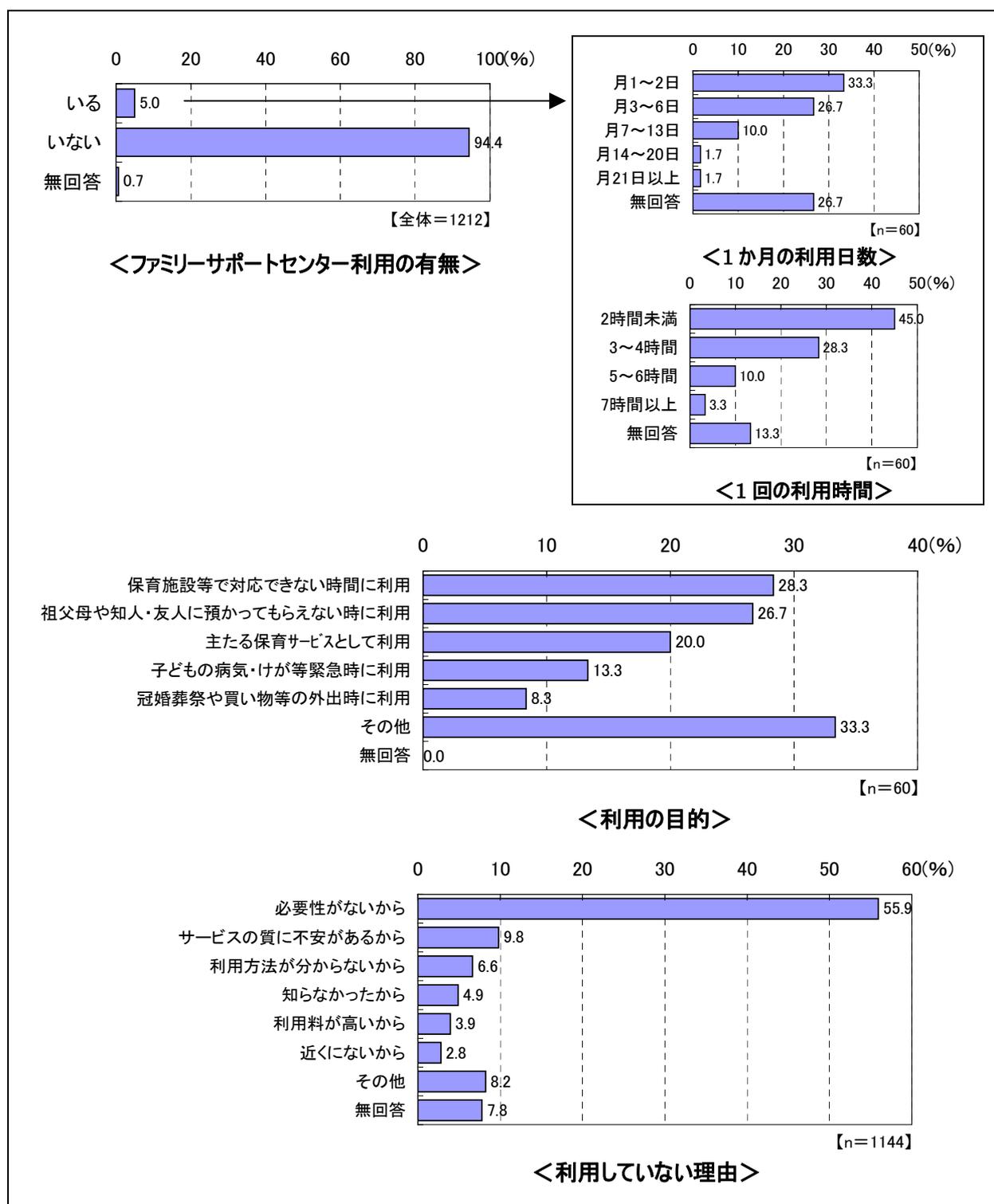
1.3. ベビーシッターの利用状況



ベビーシッターの利用状況は、利用して「いない」(97.9%)が大多数を占め、利用して「いる」は 1.2%(1212 人中 14 人)であった。

ベビーシッターを利用していない理由としては、「必要性がないから」(62.7%)が最も多い割合を占め、以下「利用料が高いから」(12.6%)、「サービスの質に不安があるから」(6.7%)となった。

14. ファミリーサポートセンターの利用状況



ファミリーサポートセンターの利用状況は、利用して「いない」(94.4%)が大多数を占め、利用して「いる」は5.0%(1212人中60人)であった。

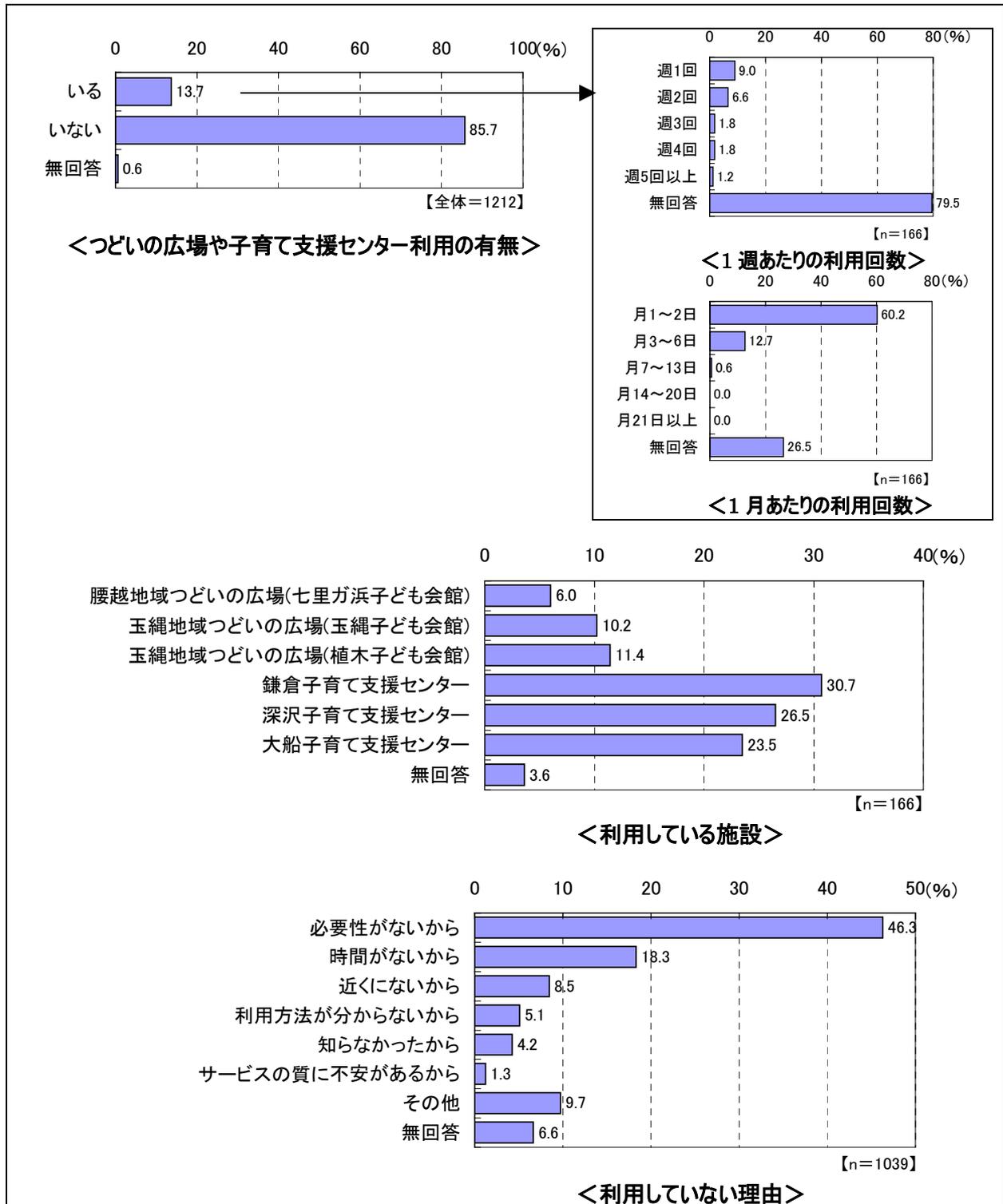
利用して「いる」回答者の、1か月の利用日数は「月1~2日」(33.3%)が最も多く、以下「月3~6日」(26.7%)、「月7~13日」(10.0%)と続いた。1回の利用時間は、「2時間未満」(45.0%)が最も多く、「3~4時間」(28.3%)、「5~6時間」(10.0%)と続いた。

利用する目的は、「保育施設等に対応できない時間に利用」(28.3%)が最も多く、「祖父母や知人・友人に預かってもらえない時に利用」(26.7%)、「主たる保育サービスとして利用」(20.0%)、「子どもの病気・けが等緊

急時に利用」(13.3%)と続いた。

一方、ファミリーサポートセンターを利用して「いない」回答者のその理由としては、「必要性がないから」(55.9%)が最も多い割合を占め、以下、「サービスの質に不安があるから」(9.8%)、「利用方法がわからないから」(6.6%)、「知らなかったから」(4.9%)と続いている。

15. つどいの広場や子育て支援センターの利用状況



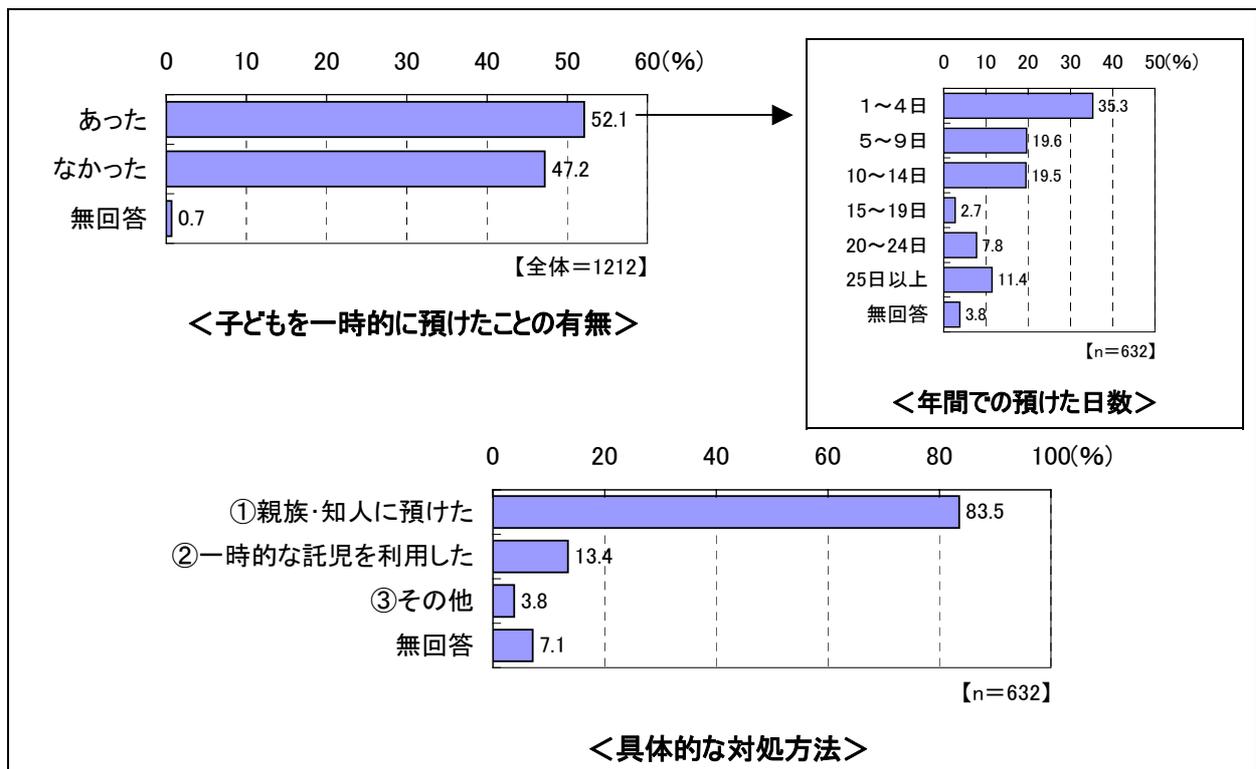
つどいの広場や子育て支援センターの利用状況は、利用して「いない」(85.7%)が多数を占め、利用して「いる」は13.7%(1212人中166人)であった。

利用日数は、1 週あたりでは「週 1 回」(9.0%)が最も多く、「週 2 回」(6.6%)、「週 3 回」「週 4 回」(1.8%)、「週 5 回以上」(1.2%)と続いた。1 月あたりでみた場合は、「月 1～2 日」(60.2%)が最も多く、「月 3～6 日」(12.7%)と続いた。

利用している施設は、全体的につどいの広場より子育て支援センターの方の利用の割合が高く、最も多かったのは「鎌倉子育て支援センター」(30.7%)、次いで「深沢子育て支援センター」(26.5%)、「大船子育て支援センター」(23.5%)となった。つどいの広場で最も多かったのは、「玉縄地域つどいの広場(植木子ども会館)」(11.4%)であった。

一方、利用して「いない」理由は、「必要性がないから」(46.3%)が最も多い割合を占め、以下、「時間がないから」(18.3%)、「近くにないから」(8.5%)、「利用方法が分からないから」(5.1%)と続いている。

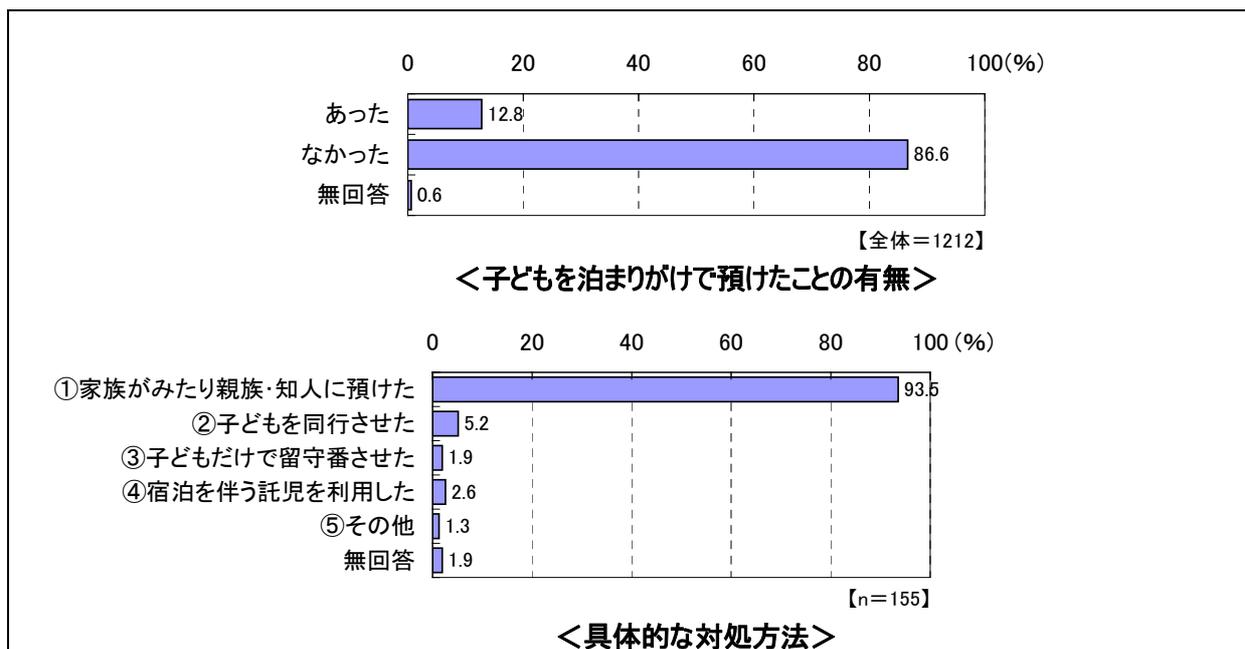
16. 子どもを一時的に預けたことの有無と対処方法



この1年間に、私用(買物、習い事、会合等)、冠婚葬祭、保護者・家族の病気や通院などで、子どもを家族以外の誰かに預けたことが「あった」(52.1%)が「なかった」(47.2%)を上回る結果となった。半数を超える回答者が、年間で「1～4 日」(35.3%)、「5～9 日」(19.6%)、「10～14 日」(19.5%)、「25 日以上」(11.4%)の順で、私用や冠婚葬祭、保護者・家族の病気や通院などの際に一時的に(泊まりをのぞく)子どもを預けた経験を有している。

具体的な対処方法は、「親族・知人に預けた」(83.5%)が多くの割合を占め、以下、「一時的な託児を利用した」(13.4%)、「その他」(3.8%)と続いた。

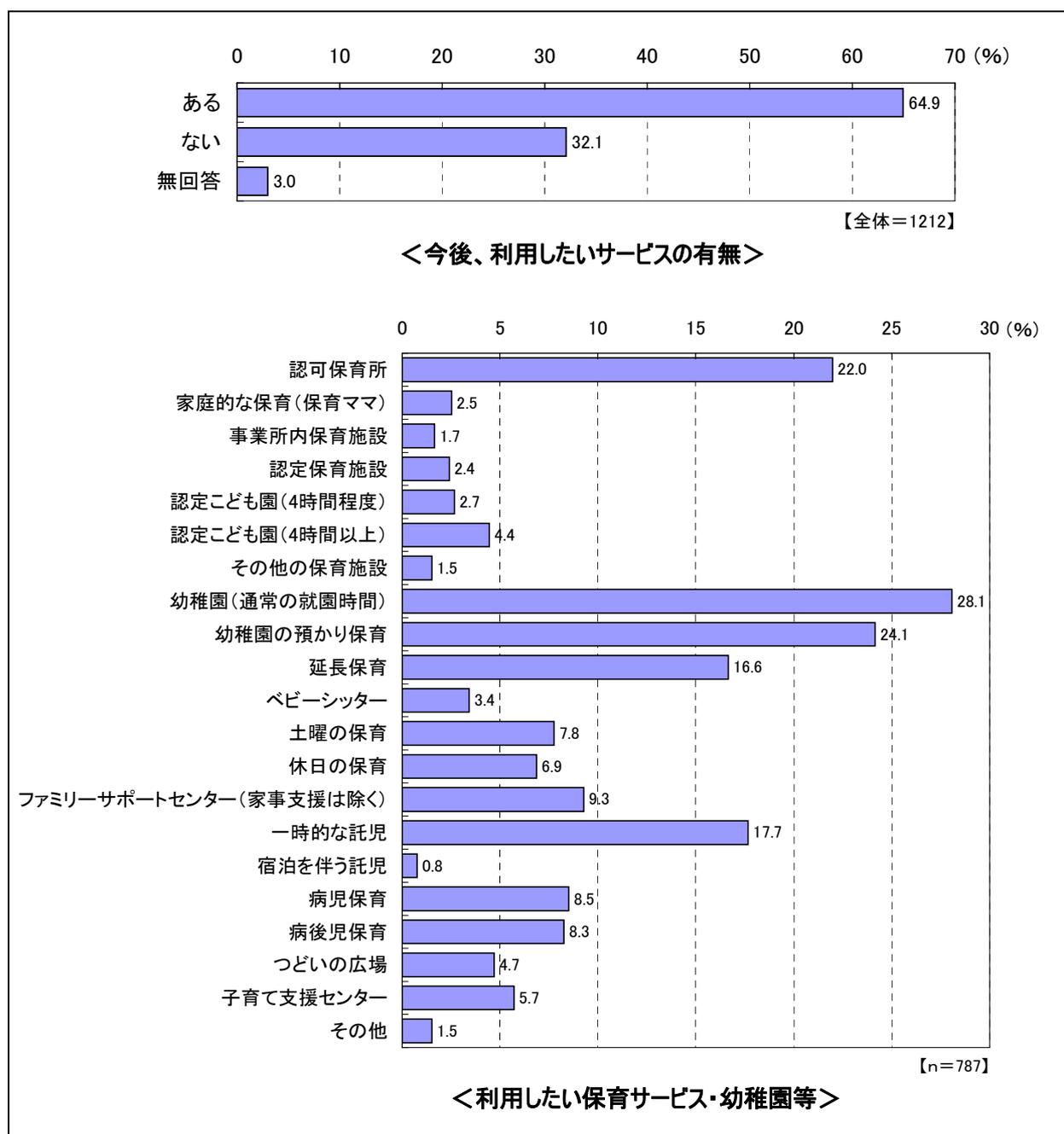
17. 子どもを泊まりがけで預けたことの有無と対処方法



この1年間に、泊まりがけで子どもを保護者以外に預けなければならないことが「なかった」(86.6%)が多くの割合を占め、「あった」は12.8%にとどまった。

具体的な対処方法としては、「家族がみたり親族・知人に預けた」(93.5%)が最も多くの割合を占め、以下、「子どもを同行させた」(5.2%)、「宿泊を伴う託児を利用した」(2.6%)等と続いている。

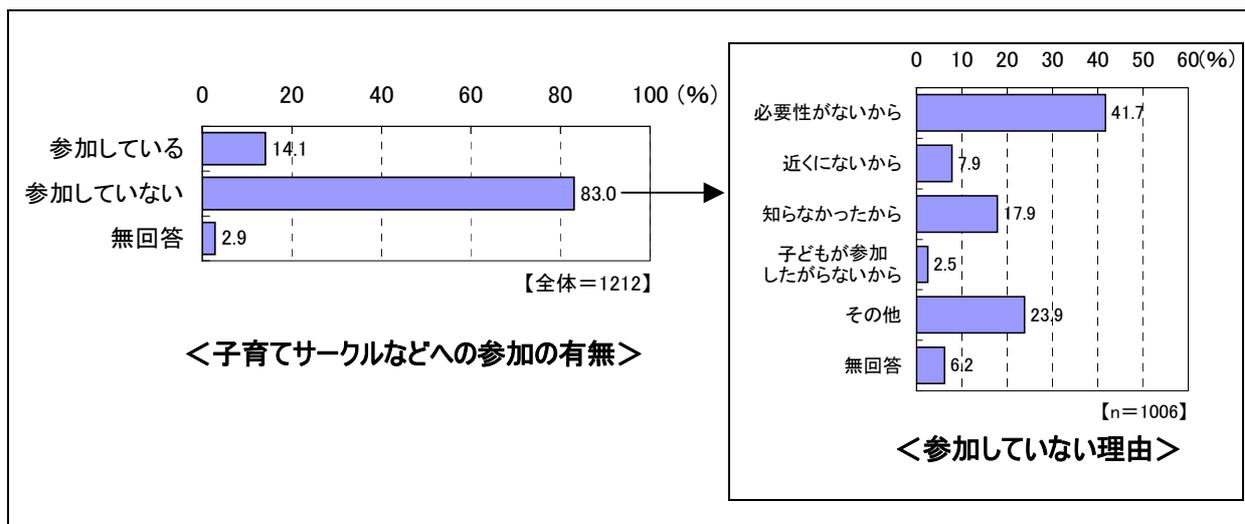
18. 今後利用したいサービスについて



今後利用したい、あるいは利用日数・回数・時間を増やしたいなどの保育サービス等が「ある」は 64.9%、「ない」は 32.1%となり、回答者のほぼ 2/3 程度が、何らかの保育サービスを希望している。

内訳をみると、最も利用希望が多かったのは、「幼稚園(通常)の就園時間)」(28.1%)、次いで「幼稚園の預かり保育」(24.1%)、「認可保育所」(22.0%)となった。以下は、各種保育サービスの「一時的な託児」(17.7%)、「延長保育」(16.6%)、「ファミリーサポートセンター」(9.3%)、「病児保育」(8.5%)、「病後児保育」(8.3%)、「土曜の保育」(7.8%)、「休日の保育」(6.9%)と続いている。

19. 子育てサークルなどへの参加状況

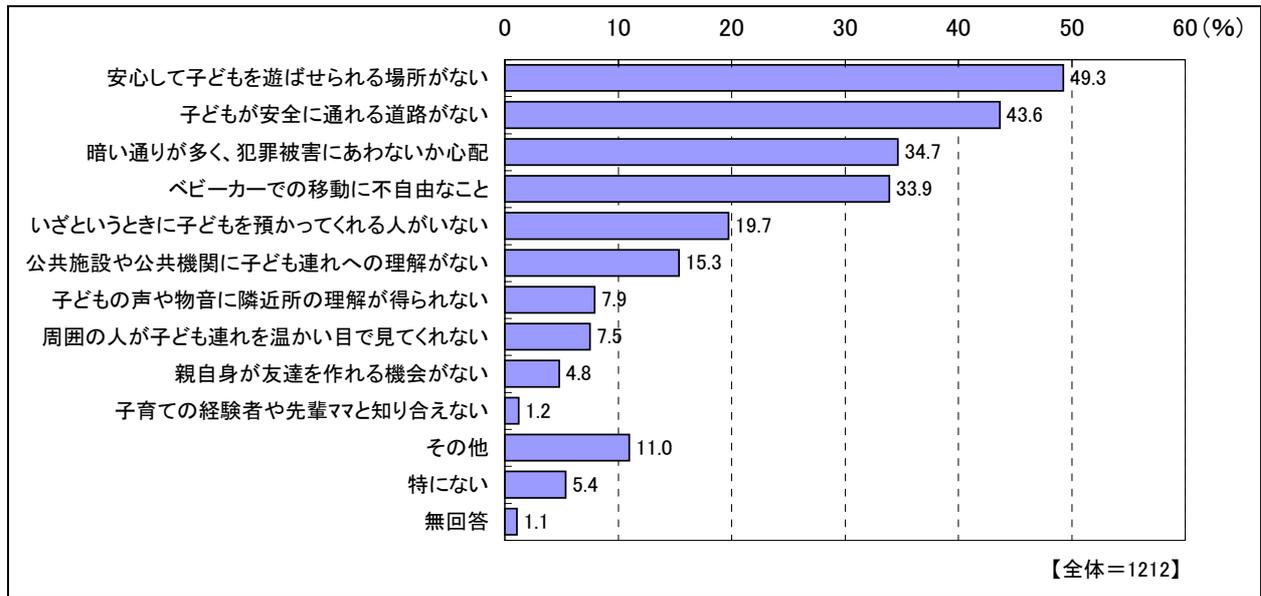


地域住民による子育てサークルなどの自主的な集まりに「参加している」は 14.1%、「参加していない」は 83.0%となった。

参加していない回答者のその理由としては、「必要性がないから」(41.7%)が最も多く、「知らなかったから」(17.9%)、「近くにないから」(7.9%)と続いている。

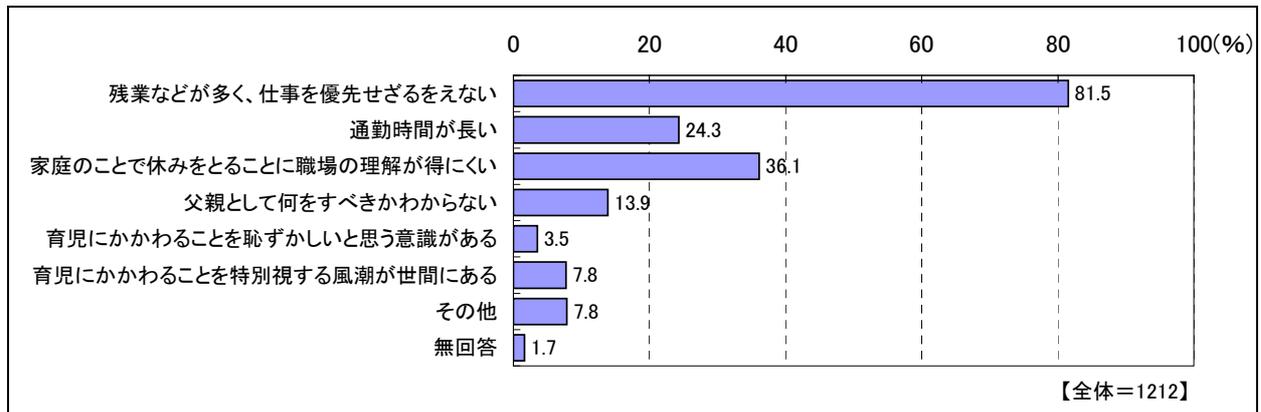
■幅広い子育ての環境や社会全体としての次世代育成支援（子育て支援）のあり方について

20. 子育てをしていて特に困ること、困ったこと



子育てに際して、特に困ること、困ったことは、「安心して子どもを遊ばせられる場所がない」(49.3%)が最も多く、以下、「子どもが安全に通れる道路がない」(43.6%)、「暗い通りが多く、犯罪被害にあわないか心配」(34.7%)、「ベビーカーでの移動に不自由なこと」(33.9%)と続き、回答者の3割以上は、子どもの遊び場所や道路、あるいはベビーカーでの移動時の障害など屋外空間における安心・安全面に苦慮していることがわかる。

21. 父親が子育てに関わりづらい理由

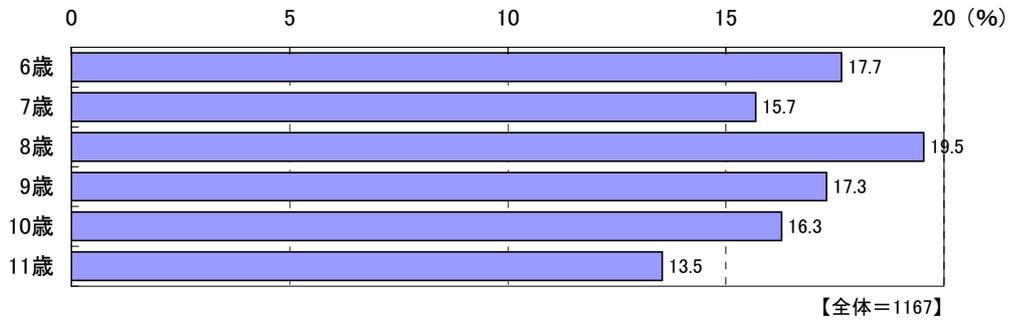


父親が子育てに関わりづらい理由は、「残業などが多く、仕事を優先せざるをえない」(81.5%)が最も多く、次いで「家庭のことで休みをとることに職場の理解が得にくい」(36.1%)、「通勤時間が長い」(24.3%)、「父親として何をすべきかわからない」(13.9%)と続いている。

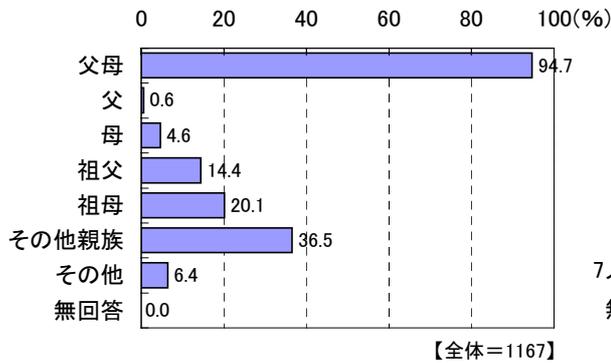
第2部 就学児童

■回答者の属性

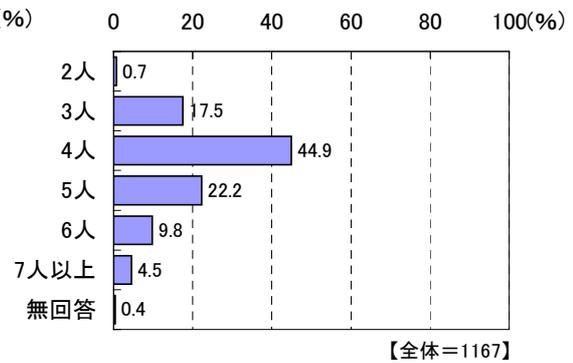
(1) 子どもの年齢



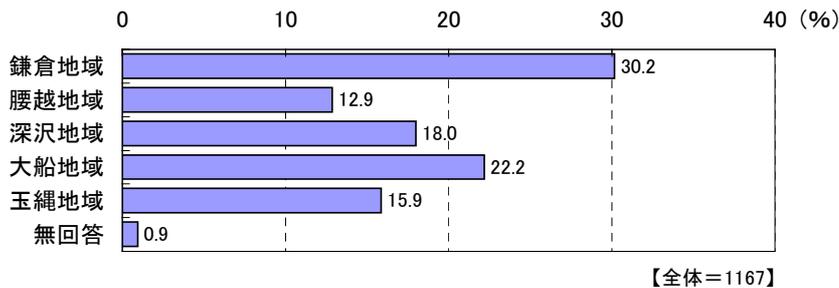
(2) 同居家族



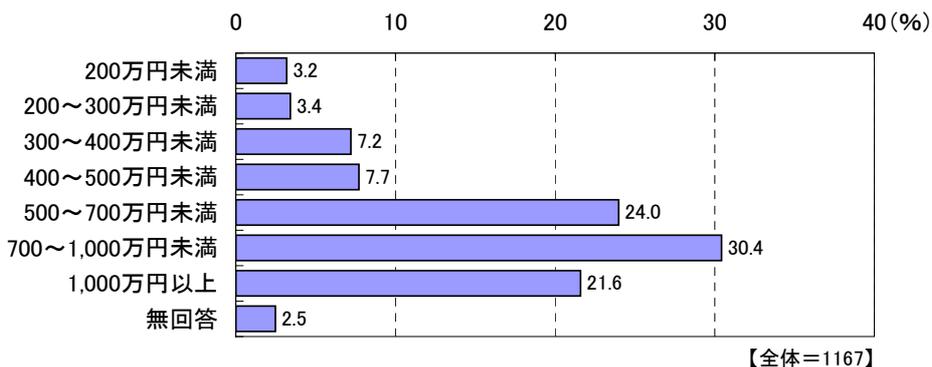
(3) 同居家族全員の人数



(3) 居住地域

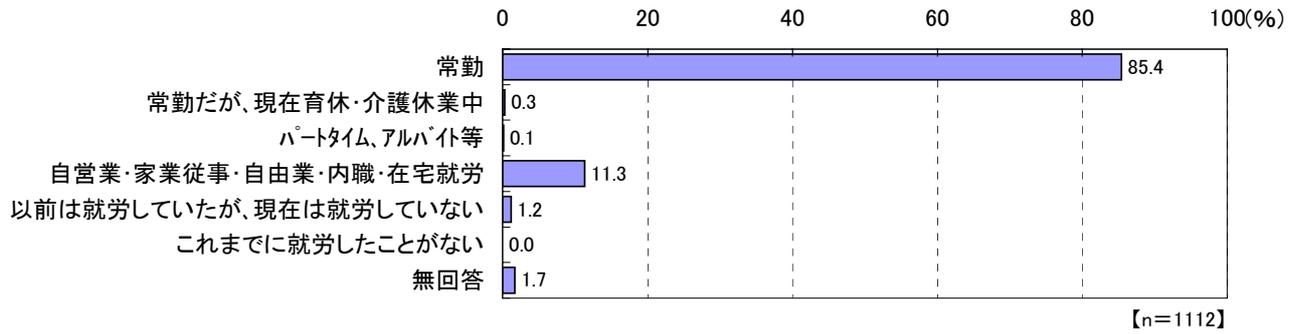


(4) 保護者の年収の合計

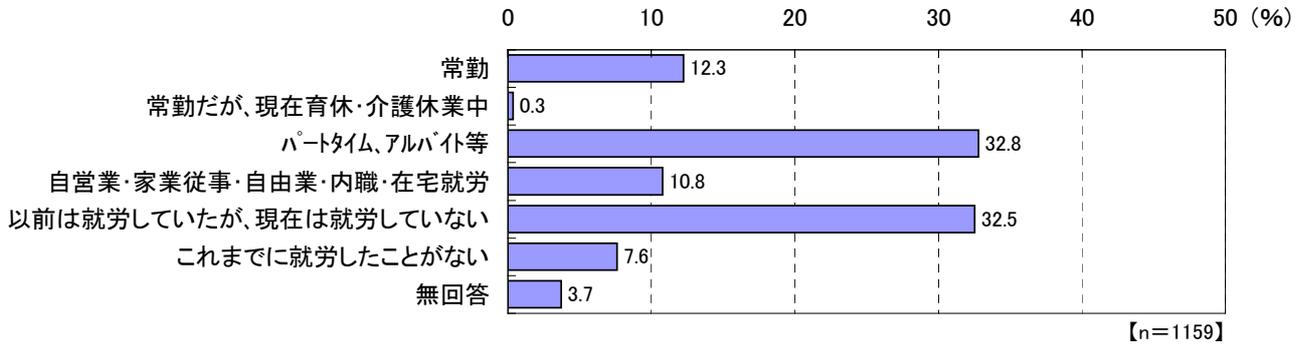


■父親・母親の就労状況

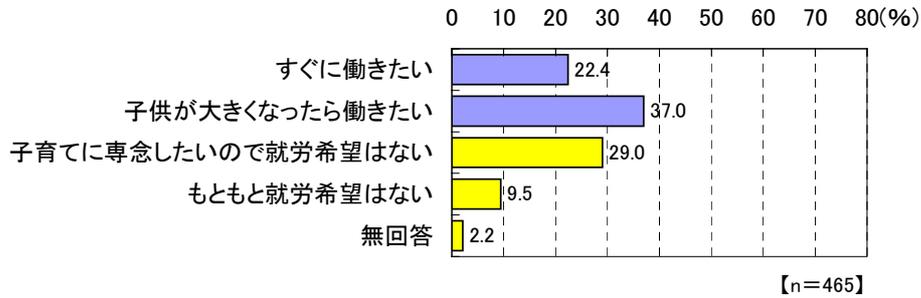
(1) 父親の就労状況



(2) 母親の就労状況

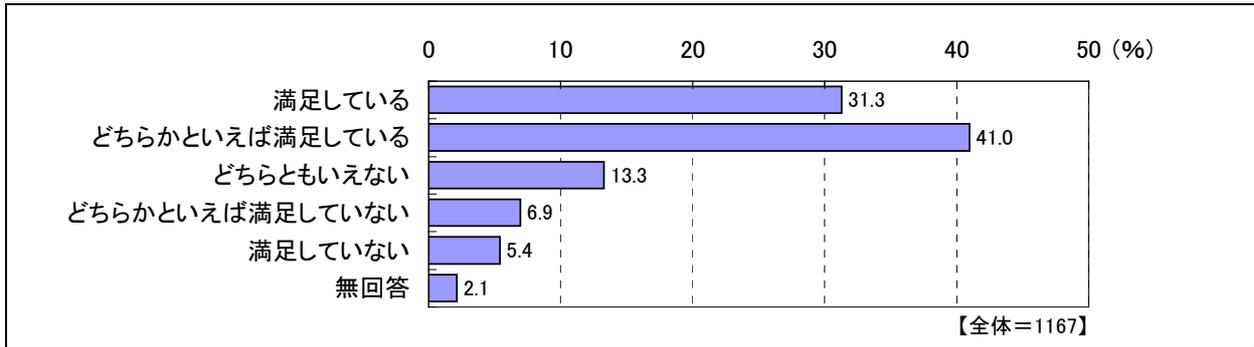


(3) 母親の就労希望



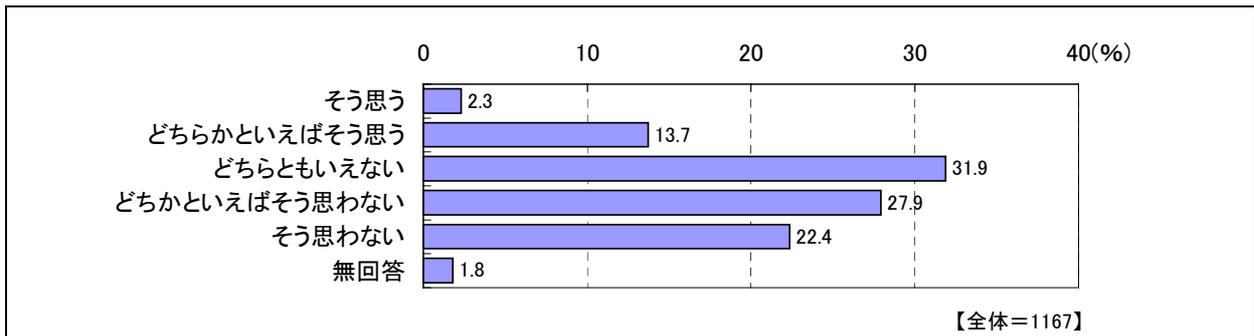
■子育てについての考え

1. 子どもを育てている生活の満足度



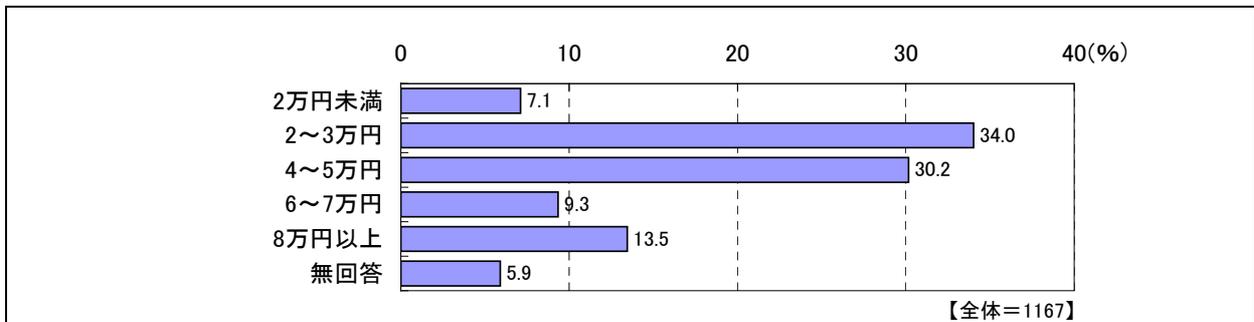
子どもを育てている現在の生活に対して、「どちらかといえば満足している」(41.0%)が最も多く、これに次ぐ「満足している」(31.3%)を合わせた<満足度>は 72.3%を占めている。一方、「どちらかといえば満足していない」(6.9%)と「満足していない」(5.4%)を合わせた<不満足度>は 12.3%となっている。

2. 「子どもを産み育てること」に社会は評価しているか



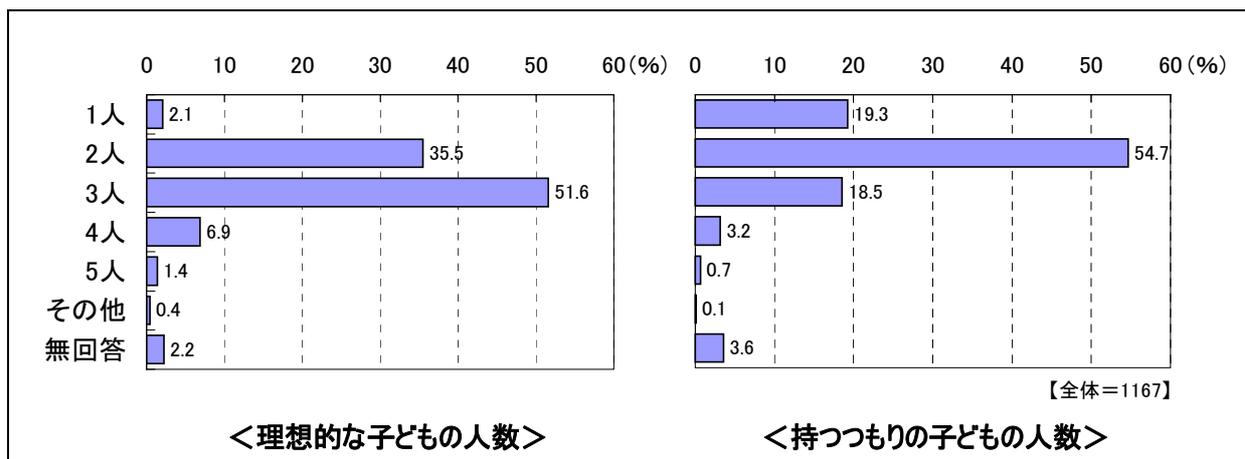
「子どもを産み育てること」を今の社会が十分に評価しているかについて、「どちらともいえない」(31.9%)が最も多く、「どちらかといえばそう思わない」(27.9%)、「そう思わない」(22.4%)の<評価しているとは思わない>が 50.3%と半数を超える結果となった。「そう思う」(2.3%)は低い割合であった。

3. 子育てにかかる1か月の費用



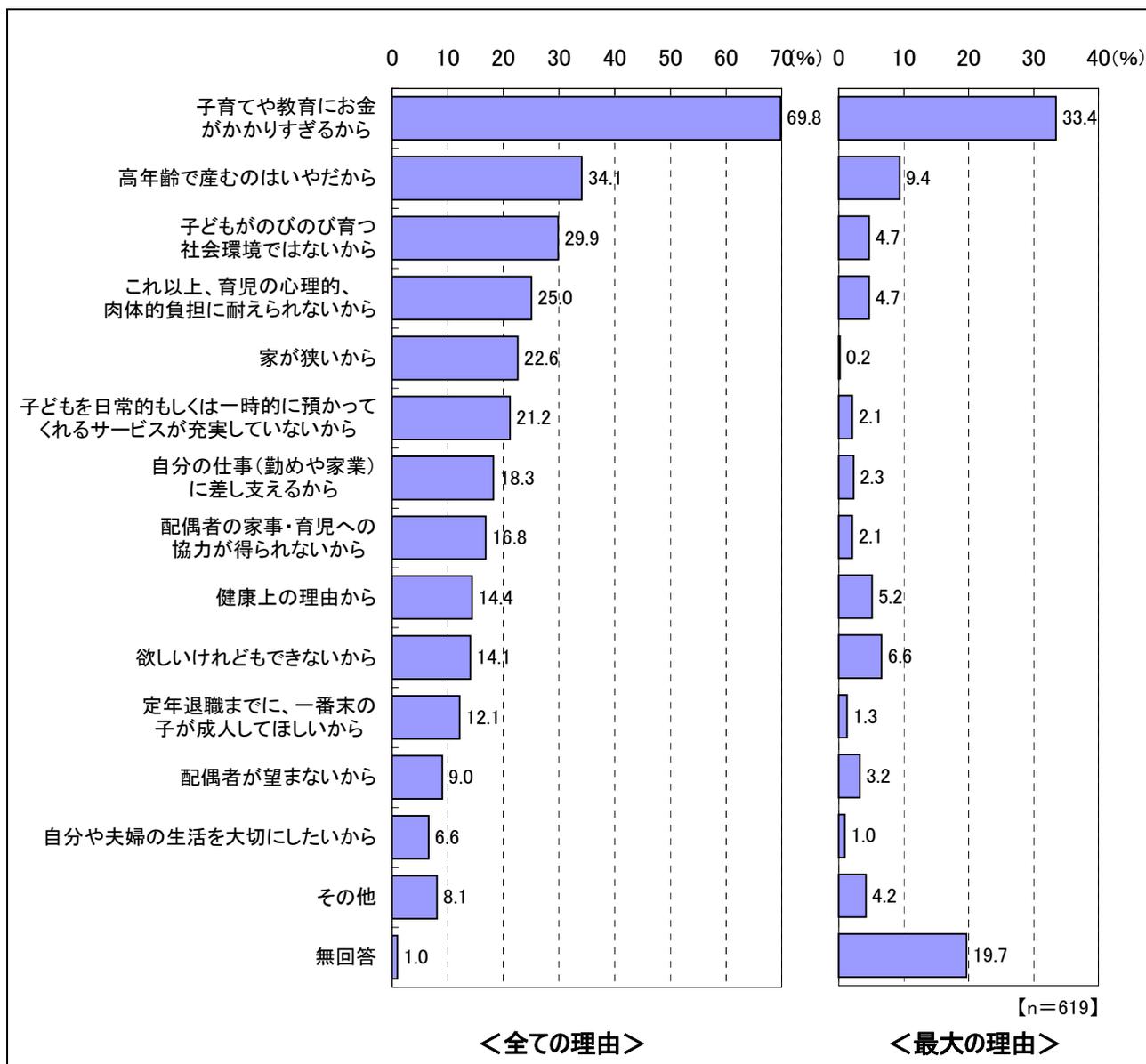
子育てにかかる1か月の費用は、「2~3万円」(34.0%)が最も多く、次いで「4~5万円」(30.2%)、「8万円以上」(13.5%)の順となった。

4. 理想的な子どもの人数と持つつもりの子どもの人数



理想的な子どもの人数は、「3人」(51.6%)が最も多く、次いで「2人」(35.5%)、「4人」(6.9%)の順となっている。一方、持つつもりの子どもの人数は、「2人」(54.7%)、「1人」(19.3%)、「3人」(18.5%)の順となっている。

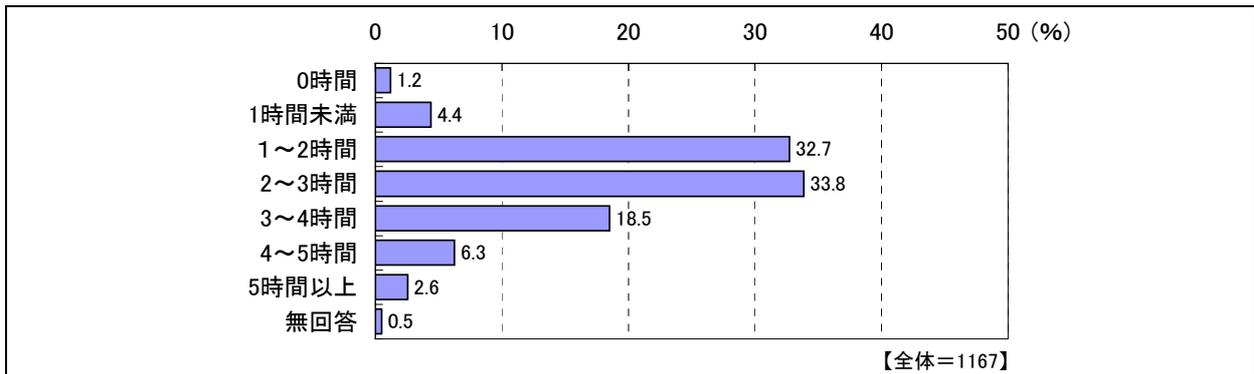
5. 理想より持つつもりの子どもの人数が少ない理由



「持つつもりの子どもの人数」が「理想的な子どもの人数」より少ない回答者(該当 619 人)の、その理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」をあげた回答者の割合が 69.8%と最も多い結果となり、さらに「最大の理由」としてあげた回答者の割合も 33.4%と最も多い結果となった。その他の理由としては、「高年齢で産むのがいやだから」(34.1%)、「子どもがのびのび育つ社会環境ではないから」(29.9%)、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」(25.0%)と続いている。

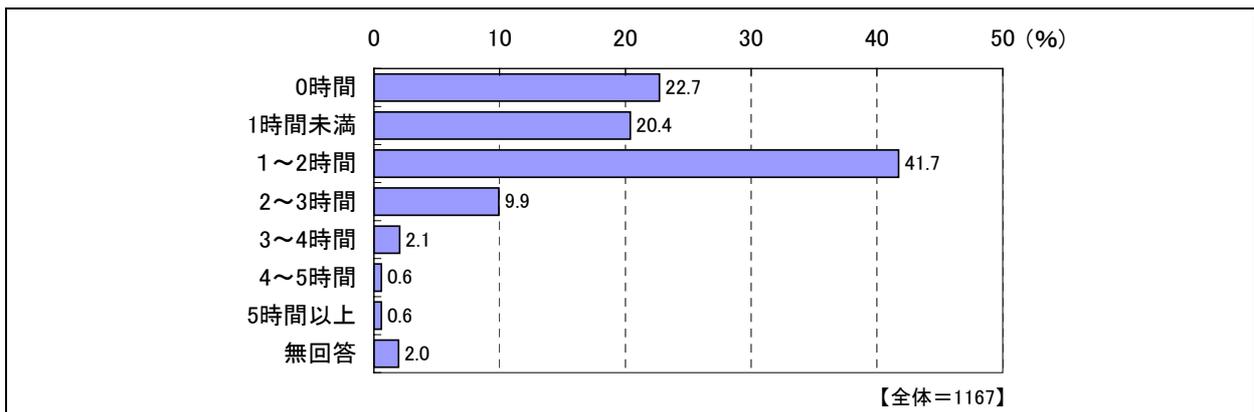
■子どもの日常生活や育児について

6. 1日あたりのテレビ・ビデオの視聴時間



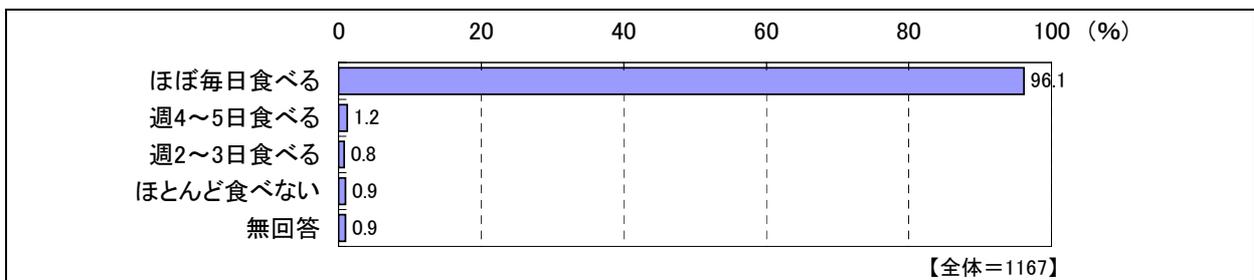
子どもの1日あたりのテレビ・ビデオの視聴時間は、「2～3 時間」(33.8%)が最も多く、以下、「1～2 時間」(32.7%)、「3～4 時間」(18.5%)と続いた。

7. 1日あたりのゲームで遊ぶ時間



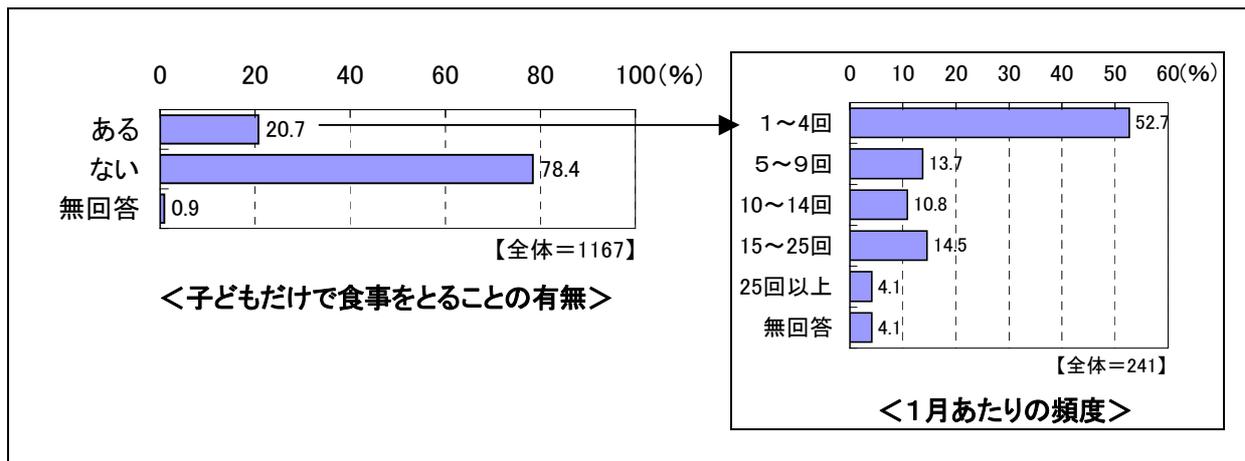
子どもの1日あたりのゲームで遊ぶ時間は、「1～2 時間」(41.7%)が最も多く、以下、「0 時間」(22.7%)、「1 時間未満」(20.4%)と続いた。

8. 子どもの朝食の頻度



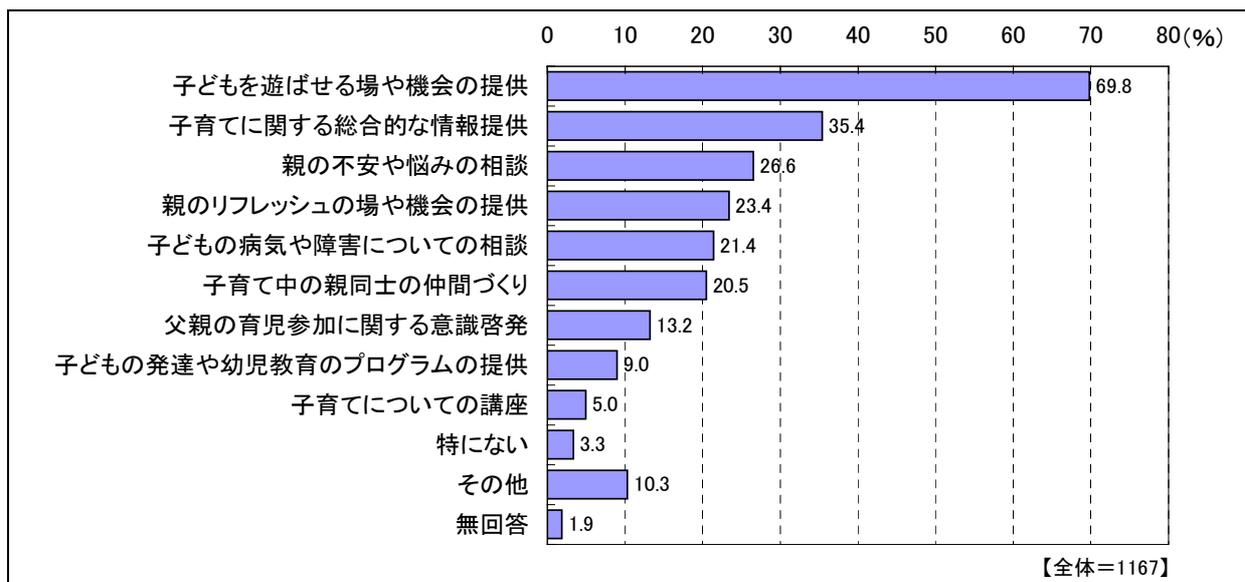
子どもが朝食を「ほぼ毎日食べる」(96.1%)が大きな割合を占めた。

9. 子どもだけで食事をとることの有無、頻度



子どもだけで食事をとことは「ない」(78.4%)が全体の 3/4 以上の割合を占めた。「ある」(20.7%)の1月あたりの頻度は、「1~4回」(52.7%)が最も多く、続いて「15~25回」(14.5%)、「5~9回」(13.7%)となった。

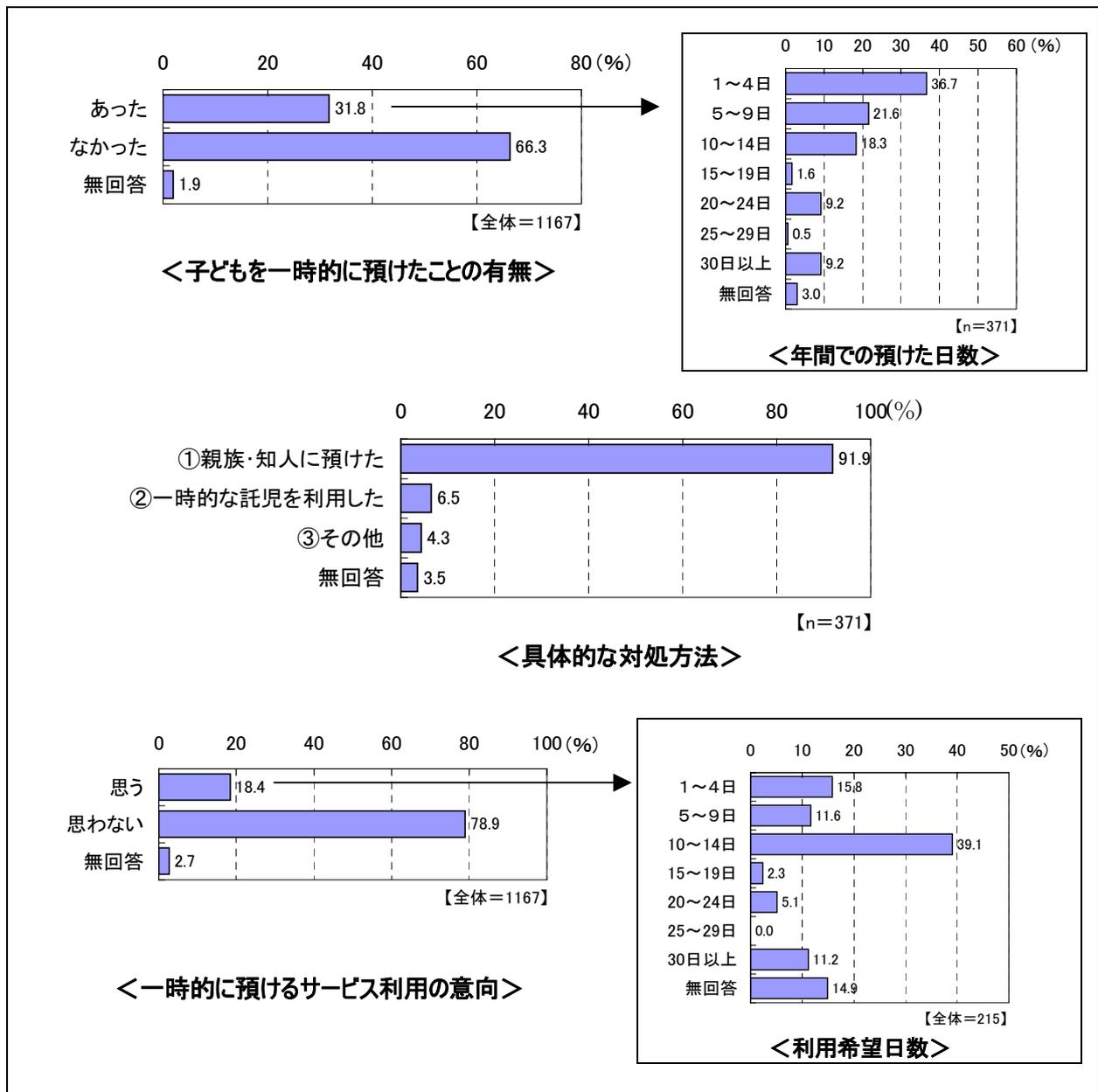
10. 子育てを楽しく行うために必要なサービス



日常の子育てを楽しく安心して行うために必要と思うサービスは、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」(69.8%)が最も多く全体のほぼ7割を占める結果となり、以下、「子育てに関する総合的な情報提供」(35.4%)、「親の不安や悩みの相談」(26.6%)、「親のリフレッシュの場や機会の提供」(23.4%)、「子どもの病気や障害についての相談」(21.4%)と続いている。

■家庭の事情等で子どもを預けるサービスについて

1.1. 子どもを一時的に預けたことの有無と対処方法、サービスの利用意向

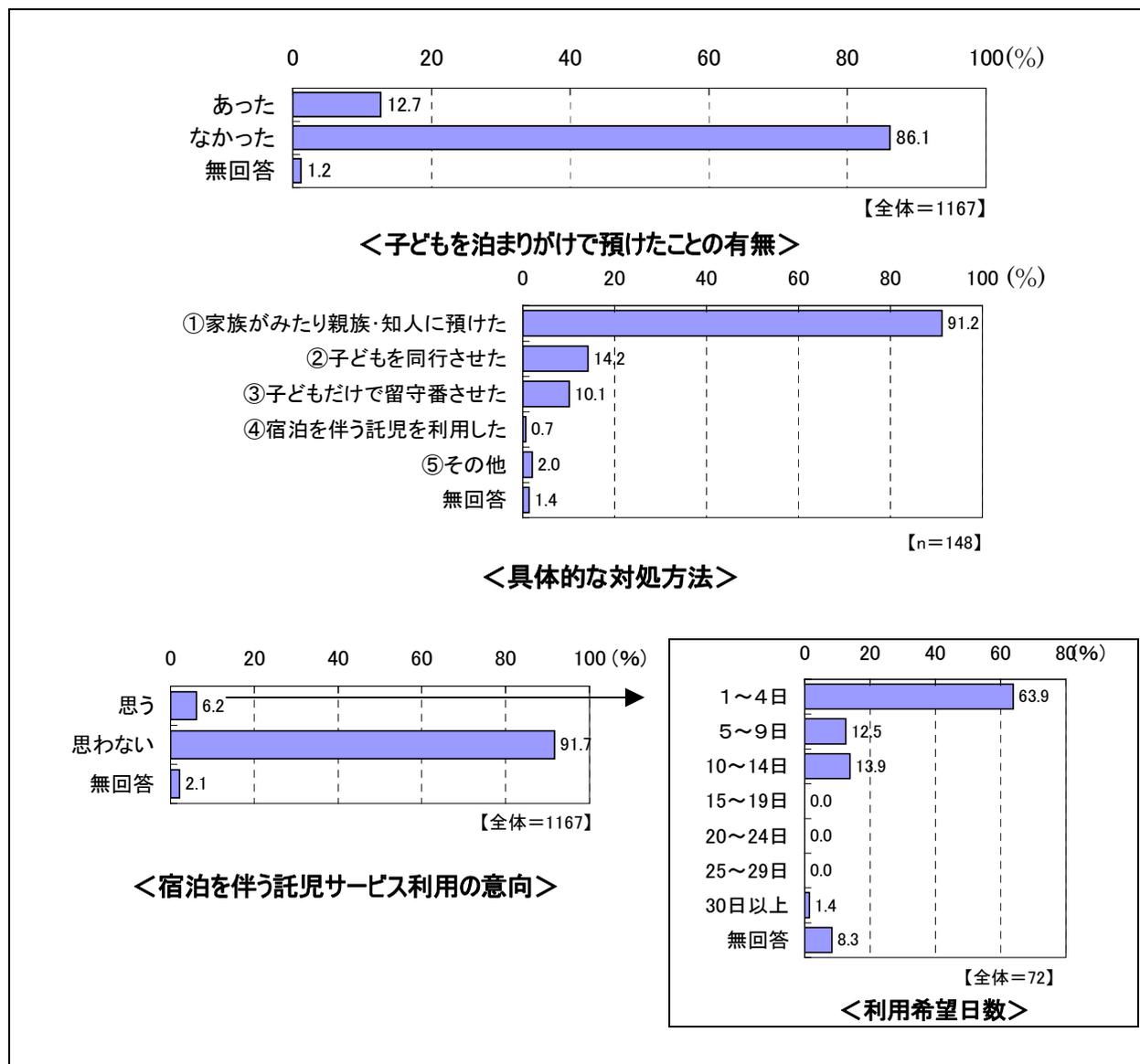


この1年間に、私用(買物、習い事、会合等)、冠婚葬祭、保護者・家族の病気や通院などで、子どもを家族以外の誰かに預けたことが「なかった」(66.3%)が「あった」(31.8%)を上回る結果となった。預けたことがあった場合の預けた日数は、年間で「1～4日」(36.7%)、「5～9日」(21.6%)、「10～14日」(18.3%)の順で、私用や冠婚葬祭、保護者・家族の病気や通院などの際に一時的に(泊まりをのぞく)子どもを預けている。

具体的な対処方法としては、「親族・知人に預けた」(91.9%)が多くの割合を占めた。

今後、一時的に子どもを預けるサービスの利用意向としては、利用したいと「思わない」(78.9%)が「思う」(18.4%)を上回る結果となり、利用したい回答者が希望する利用日数は、「10～14日」(39.1%)が最も多く、以下、「1～4日」(15.8%)、「5～9日」(11.6%)と続いた。

12. 子どもを泊まりがけで預けたことの有無と対処方法、サービスの利用意向



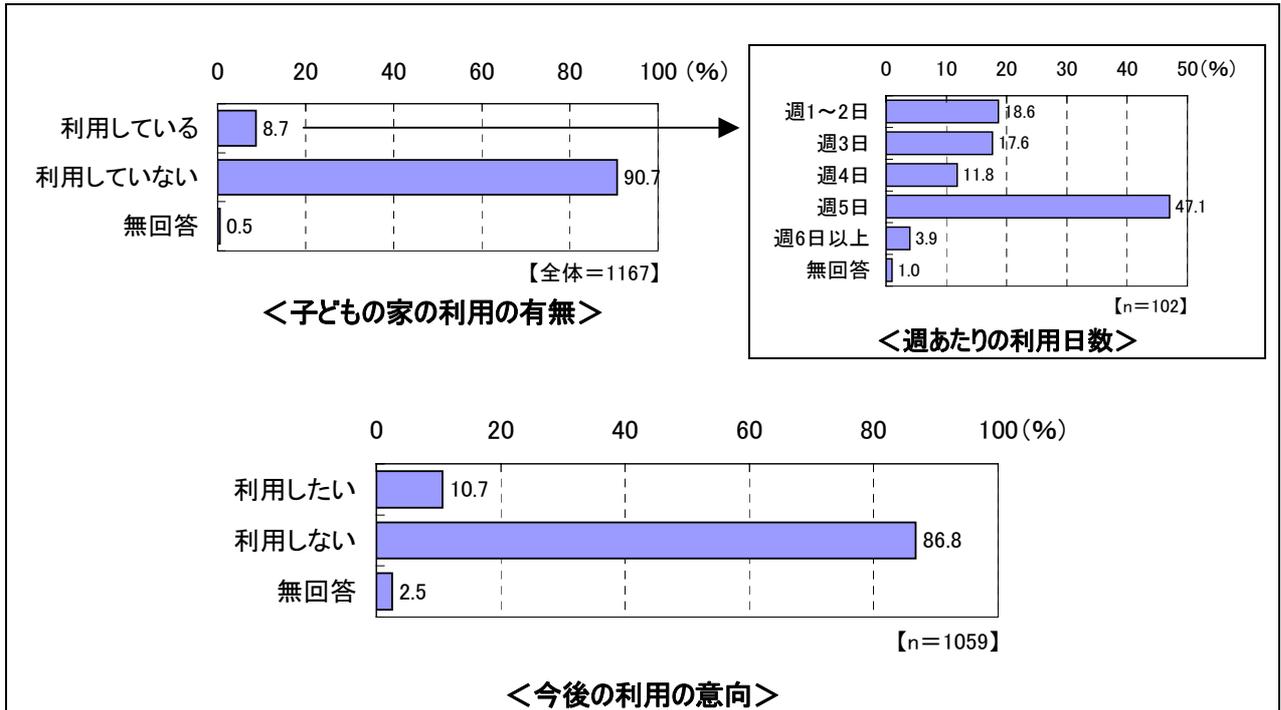
この1年間に、泊まりがけで子どもを保護者以外に預けなければならないことが「なかった」(86.1%)が多くの割合を占め、「あった」は12.7%にとどまった。

「あった」場合の具体的な対処方法としては、「家族がみたり親族・知人に預けた」(91.2%)が最も多くの割合を占めた。

今後、宿泊を伴う託児サービス等の利用意向としては、利用したいと「思わない」(91.7%)が大きな割合を占める結果となった。利用したい回答者の希望する利用日数は、「1～4日」(63.9%)が最も多く、以下、「10～14日」(13.9%)、「5～9日」(12.5%)と続いた。

■子どもの家（学童保育）や育児に関するサービスの利用等について

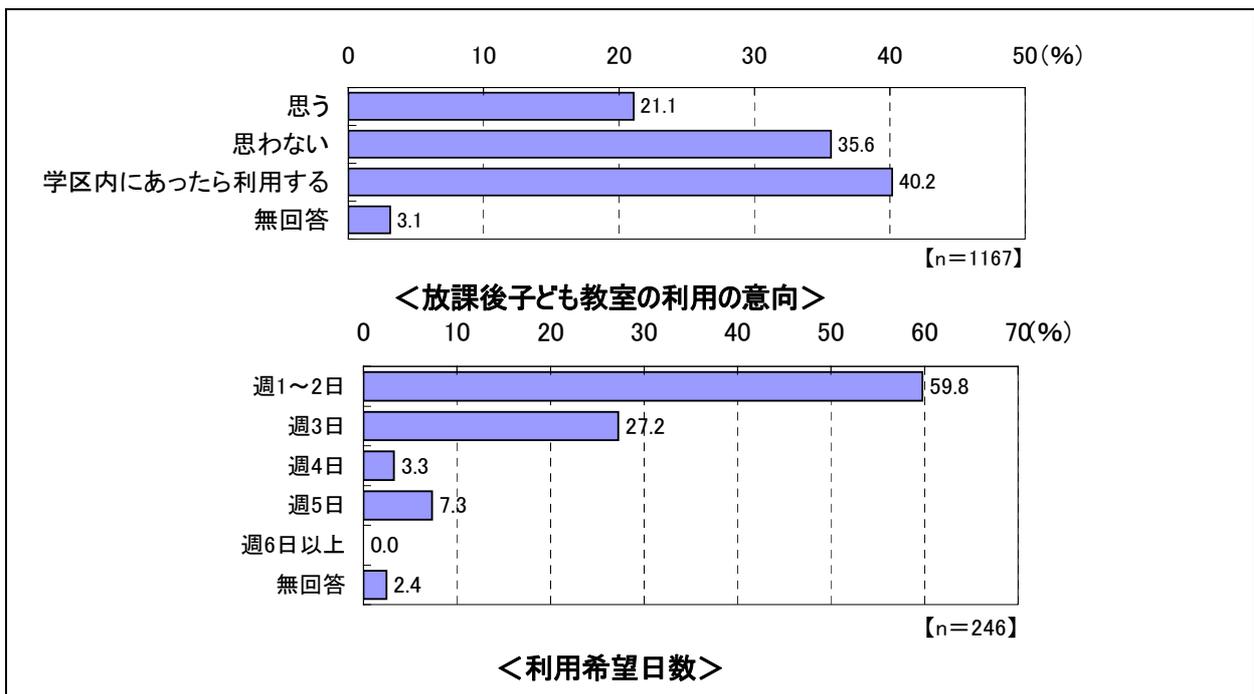
1.3. 子どもの家の利用状況



子どもの家の利用状況は、「利用していない」(90.7%)が多くを占め、「利用している」は8.7%(1167人中102人)であった。利用している回答者の、1週間あたりの利用日数は「週5日」(47.1%)が最も多く、以下、「週1～2日」(18.6%)、「週3日」(17.6%)、「週4日」(11.8%)と続き、利用者は比較的高い頻度で子どもの家を利用している。

また、今後の子どもの家の利用の意向としては、「利用しない」(86.8%)が多い結果となった。

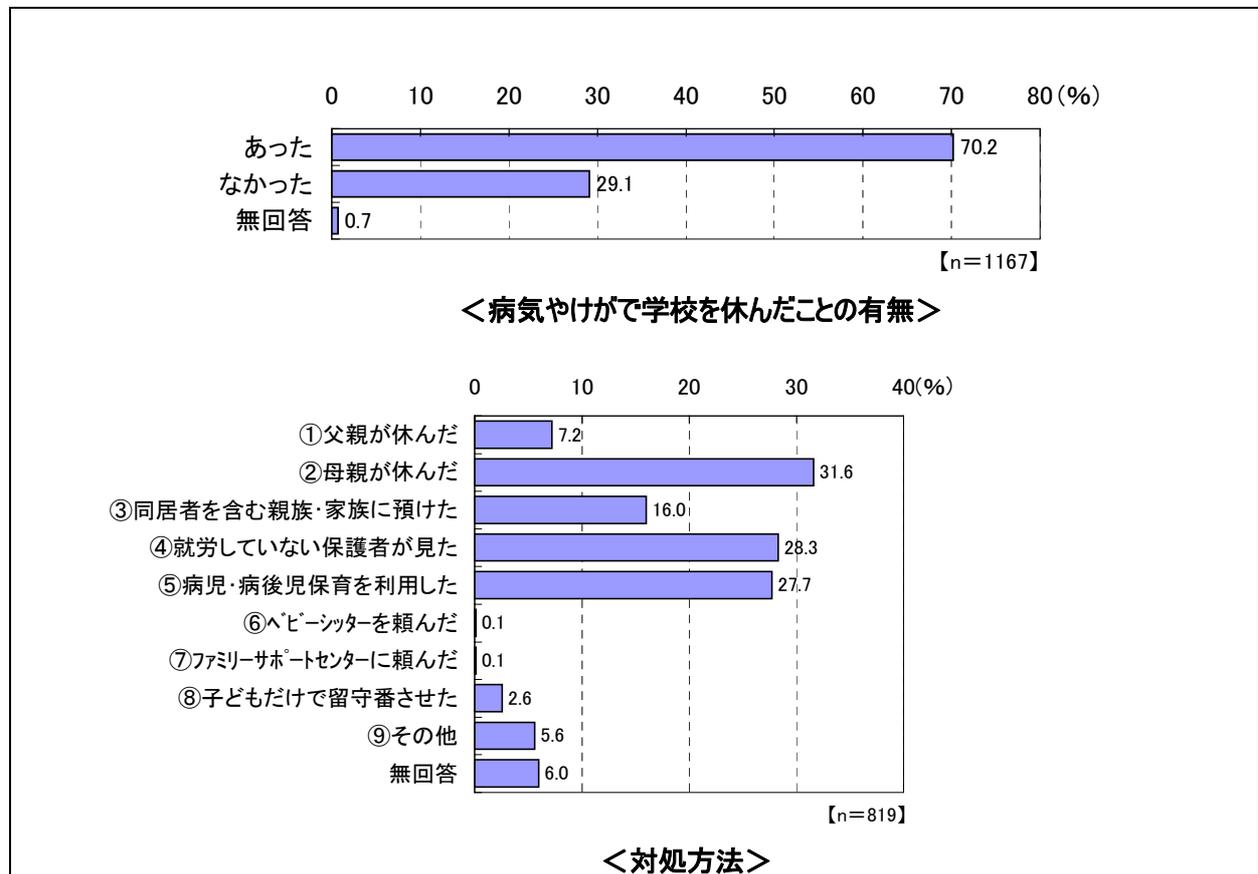
1.4. 放課後子ども教室の利用意向



放課後子ども教室の利用の意向は、「学区内にあったら利用する」(40.2%)が最も多く、利用したいと思わない」(35.6%)、「思う」(21.1%)となった。

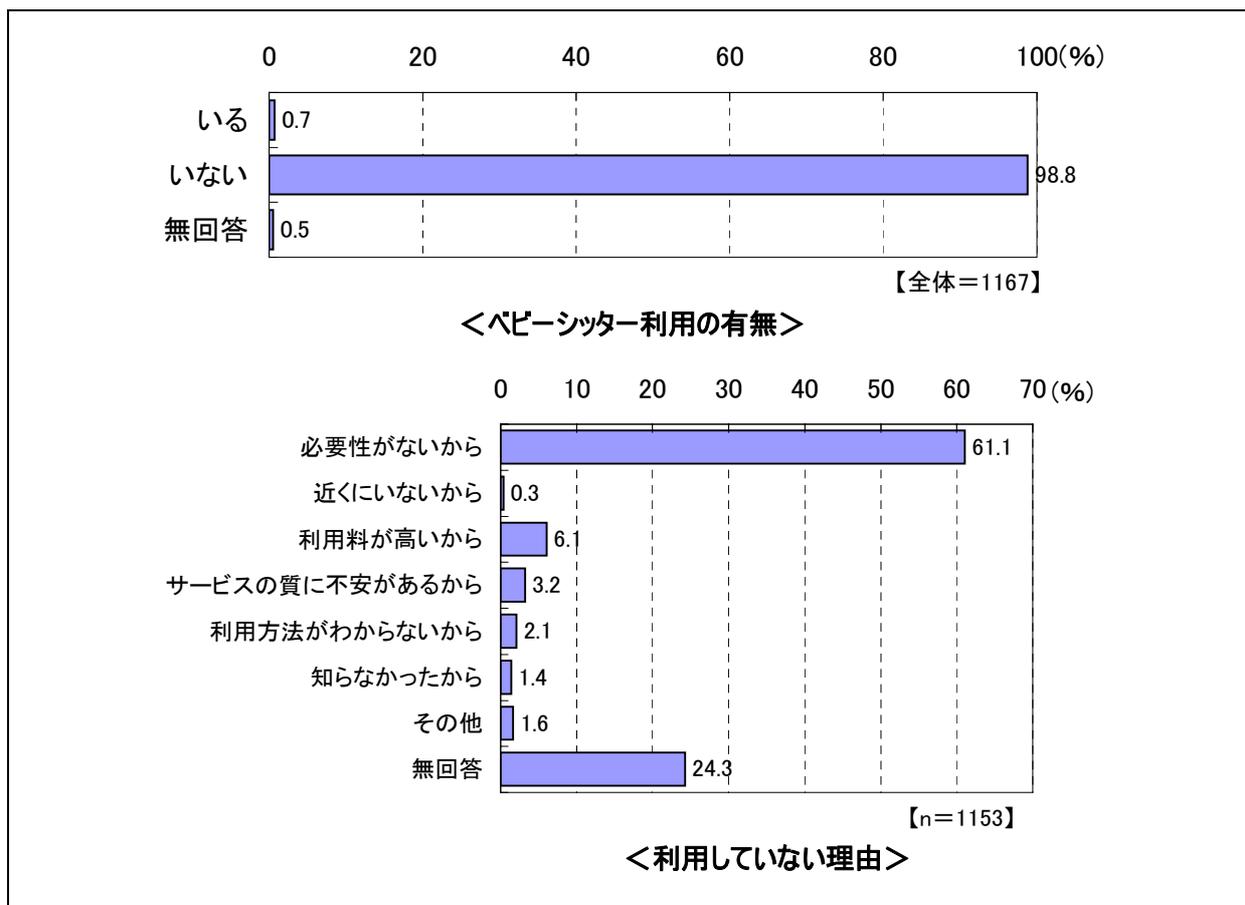
利用したい回答者の1週間あたりの利用希望日数は、「週 1～2 日」(59.8%)が最も多く、以下、「週 3 日」(27.2%)、「週 5 日」(7.3%)と続いた。

15. 学校を休んだことの有無と対処方法



この1年間に子どもが病気やけがで学校を休んだことが「あった」は70.2%、「なかった」は29.1%となった。「あった」場合の対処方法として最も多かったのは「母親が休んだ」(31.6%)で、「就労していない保護者がみた」(28.3%)、「病児・病後児保育を利用した」(27.7%)と続いている。

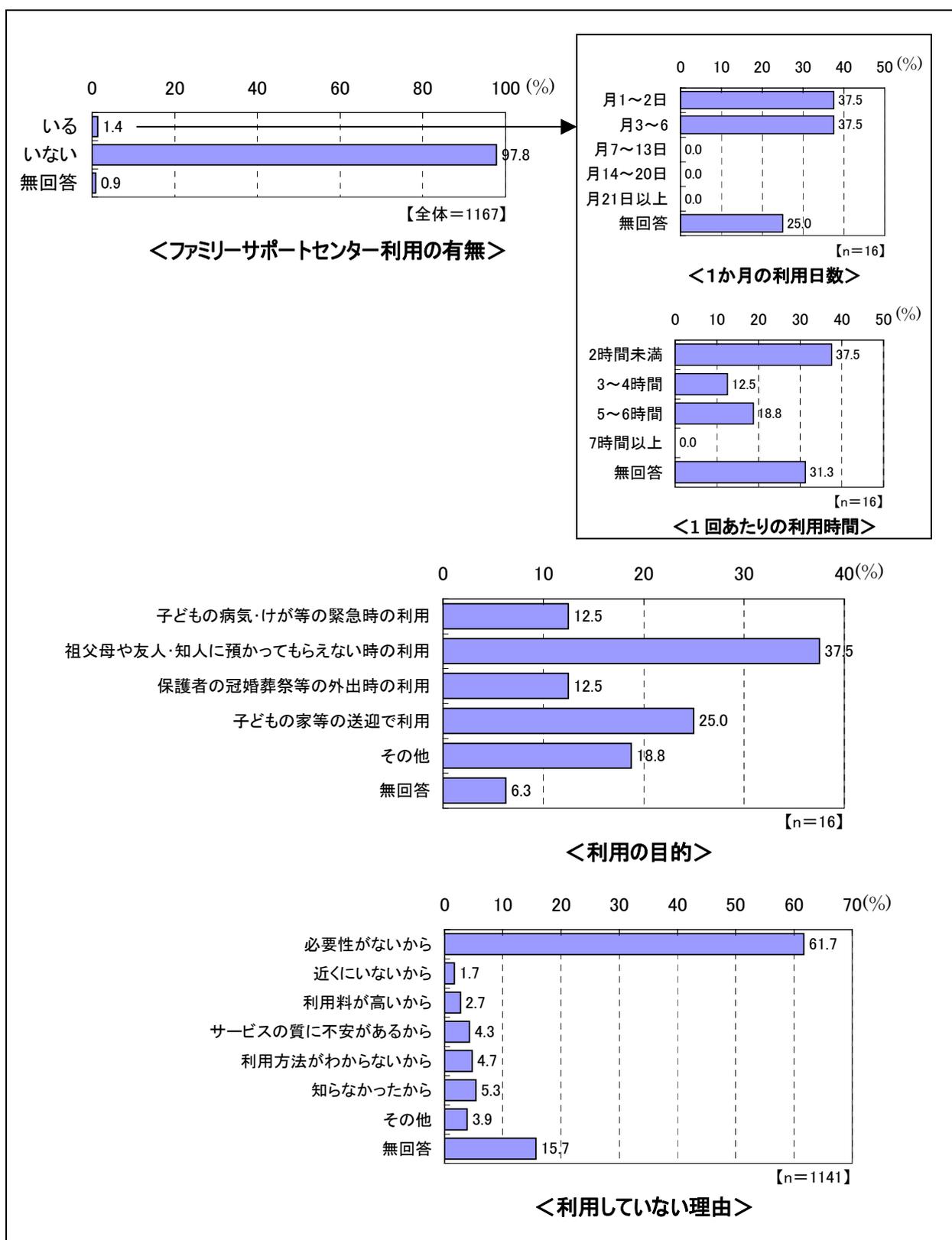
16. ベビーシッターの利用状況



ベビーシッターの利用状況は、利用して「いない」(98.8%)が大多数を占め、利用して「いる」は 0.7%(1167 人中 8 人)であった。

ベビーシッターを利用していない理由としては、「必要性がないから」(61.1%)が最も多く、以下、「利用料が高いから」(6.1%)、「サービスの質に不安があるから」(3.2%)となった。

17. ファミリーサポートセンターの利用状況



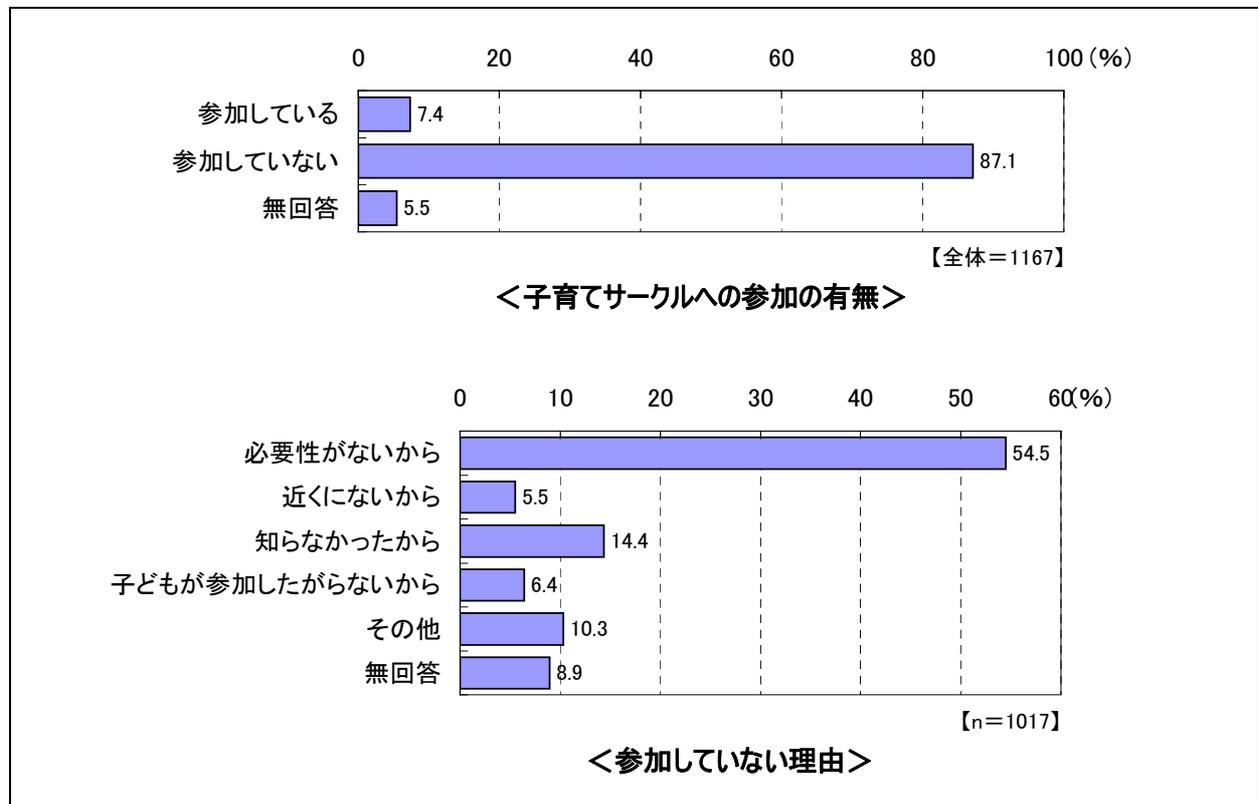
ファミリーサポートセンターの利用状況は、利用して「いない」(97.8%)が大部分を占め、利用して「いる」は1.4%(1167人中16人)であった。

利用して「いる」回答者の、1か月あたりの利用日数は「月1~2日」「月3~6日」(ともに37.5%)となった。1回あたりの利用時間は、「2時間未満」(37.5%)が最も多く、「5~6時間」(18.8%)と続いた。

利用する目的は、「祖父母や知人・友人に預かってもらえない時に利用」(37.5%)が最も多く、「子どもの家等の送迎で利用」(25.0%)と続いている。

一方、ファミリーサポートセンターを利用していない理由としては、「必要性がないから」(61.7%)が最も多い割合を占め、以下、「知らなかったから」(5.3%)、「利用方法がわからないから」(4.7%)と続いている。

18. 子育てサークルなどへの参加状況

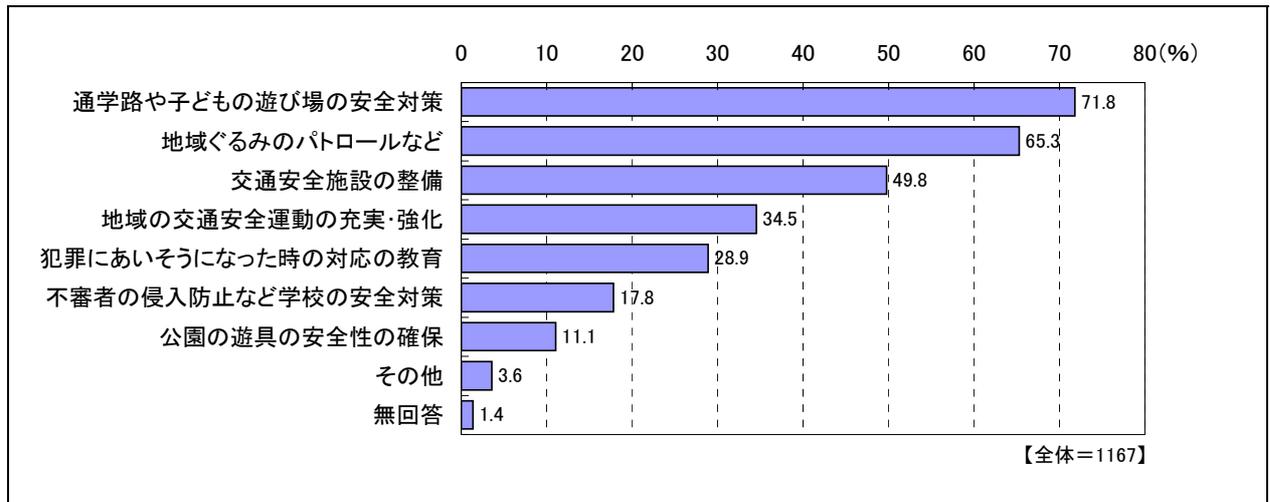


地域住民による子育てサークルなどに、「参加していない」(87.1%)が「参加している」(7.4%)を大きく上回る結果となった。

参加していない理由としては、「必要性がないから」(54.5%)が最も多く、以下、「知らなかったから」(14.4%)、「子どもが参加したがるから」(6.4%)となっている。

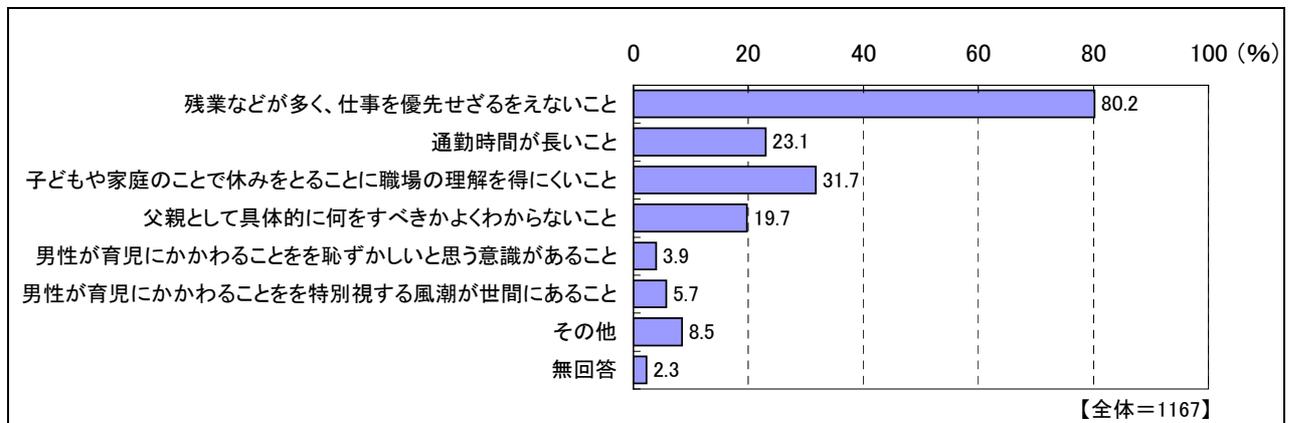
■幅広い子育ての環境や社会全体としての次世代育成支援（子育て支援）のあり方について

19. 子どもの安全を守るために特に重要と思うこと



子どもの安全を守るために特に重要と思われることとして、最も回答が多かったのは、「通学路や子どもの遊び場の安全対策」(71.8%)で、以下、「地域ぐるみのパトロールなど」(65.3%)、「交通安全施設の整備」(49.8%)、「地域の交通安全運動の充実・強化」(34.5%)と続いた。

20. 父親が子育てにかかわりづらい理由



父親が子育てに関わりづらい理由は、「残業などが多く、仕事を優先せざるをえない」(80.2%)が最も多く、次いで「子どもや家庭のことで休みをとることに職場の理解が得にくいこと」(31.7%)、「通勤時間が長いこと」(23.1%)、「父親として具体的に何をすべきかわからないこと」(19.7%)と続いている。

**鎌倉市次世代育成支援に関するニーズ調査
報告書概要版**

鎌倉市こども部こどもみらい課

平成 21 年 3 月発行
